

東海地方 [AS]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和 23 年 10 月 (1948) に身体障害者更生援護施設として定員 50 名で設置される。その後、昭和 27 年 9 月 (1952) に身体障害者更生援護施設を廃止して、救護施設及び、授産並びに職業補導を行う施設に変更。翌年、定員を 100 名に増員し、増改築を繰り返しながら現行の定員 120 名に至る。なお、現行の法人は平成 23 年 4 月 (2011) より、A 県から移譲を受けている。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造であり、敷地面積 43498.16m² に対して、延床面積 2736.59m² であった。施設形態は単棟多翼型で平屋建てであった。1 階部分に居室を含む利用者に供用される空間等、全ての設備が配置されている。なお、アプローチは 1 階に配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性 50.0%、女性 50.0%であり、入所者数は定員 120 名に対して 120 名であった (アンケート回収時：2016/11)。利用者の障害種別は B-1 で障害状況を問わず様々な利用がなされている。男女構成に関しては、男性ゾーンと女性ゾーンに住み分けがなされており、定員に関しても男性女性それぞれ 60 名である。

④居室環境に関して

居室は定員 6 名をベースに定員 2 名、定員 5 名がそれぞれ設置されており居室面積は、定員 6 名 28.35m² (12 室)、定員 2 名 12.60m² (1 室)、定員 5 名 28.35m² (6 室) であった。居室設備は空調設備・収納・寝具を完備、寝具は全て布団とベッドを併用しており、洋室に関してはカーテンレールによる間仕切りが利用されており、和室は着替えスペースのみ仕切りを設けている。

⑤公共空間に関して

女子寮と男子寮は食堂棟を介して接続がなされている。利用者の高齢化や障害状況の多様化に伴い、車椅子の利用が増加している。そのため、各居室棟の廊下に車椅子がスタッキングされており、移動動線の妨げとなっている。

⑥ヒアリング調査の抜粋

[AS] は現在、同一敷地内に建て替え工事を実施している。現行施設に関しては、廊下の床材に軟質カーペットを採用しており、歩行性に優れるものの、利用者の嘔吐物や施設の埃や匂いなどの対応し難い状況にある。

[施設ゾーニング凡例]

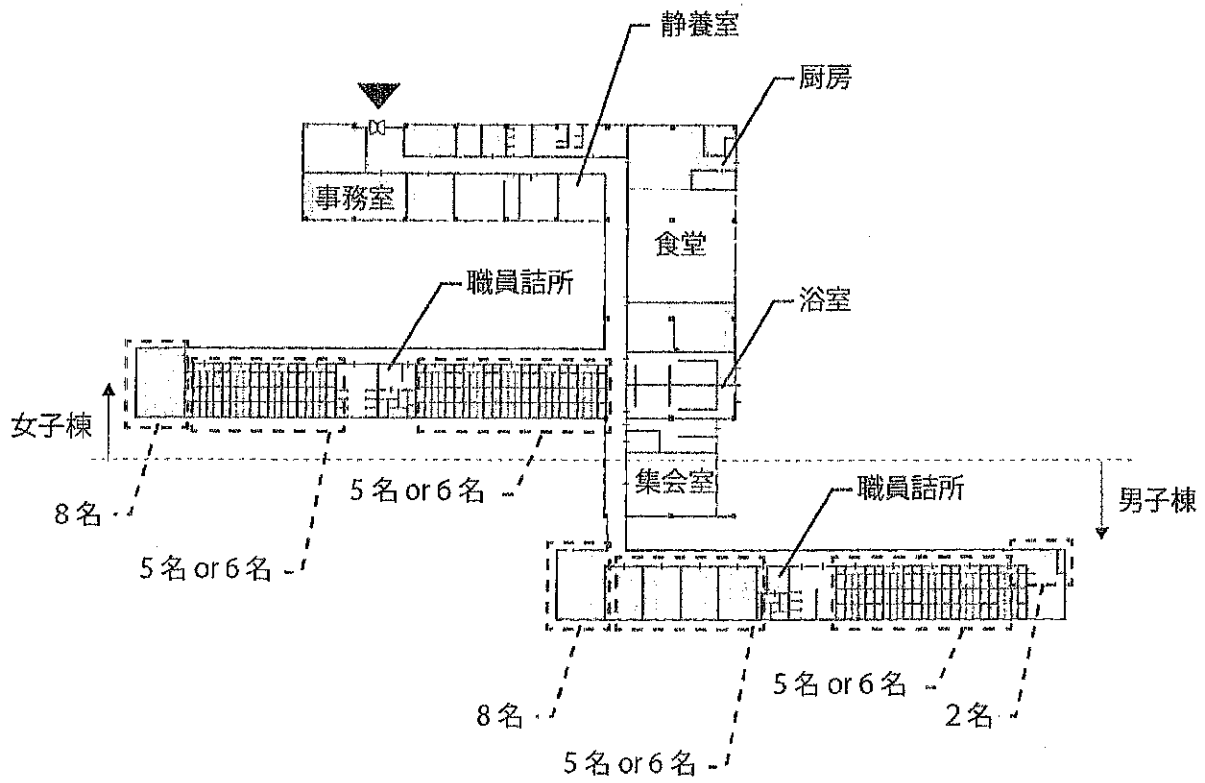
利用者の居室空間

居室以外の共用空間

職員の空間

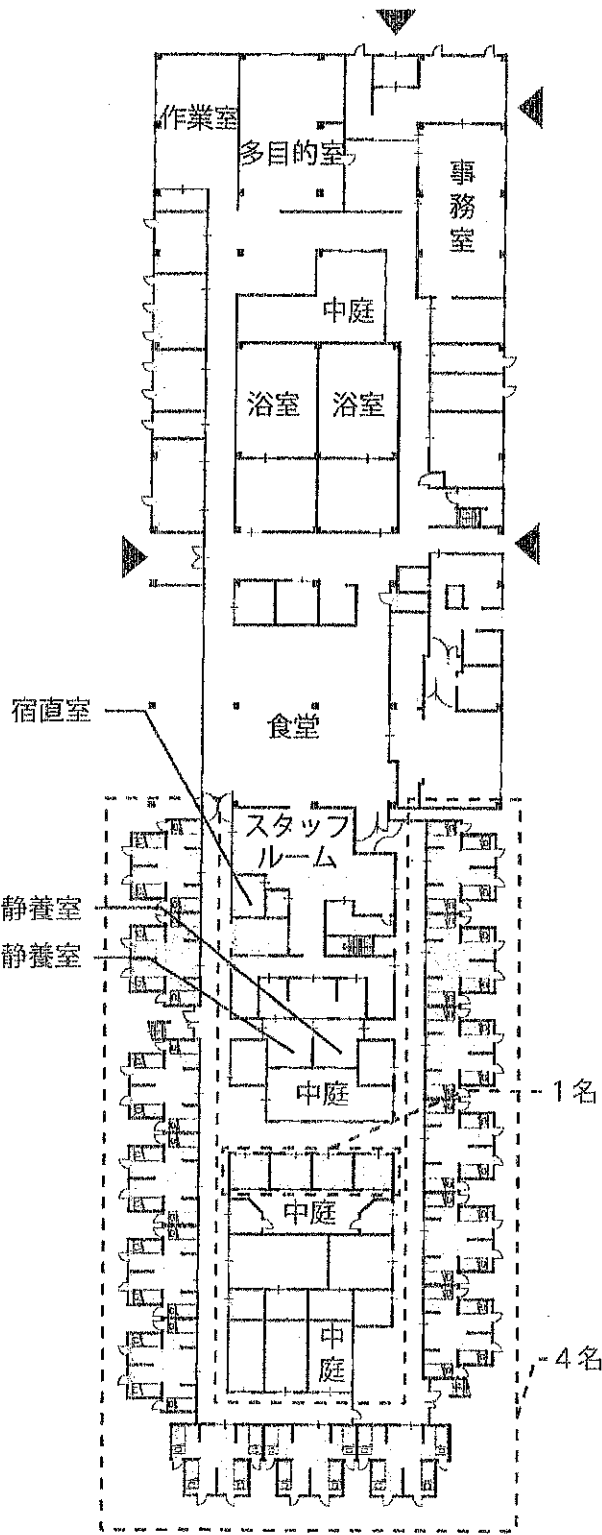
維持管理の空間

垂直動線の空間

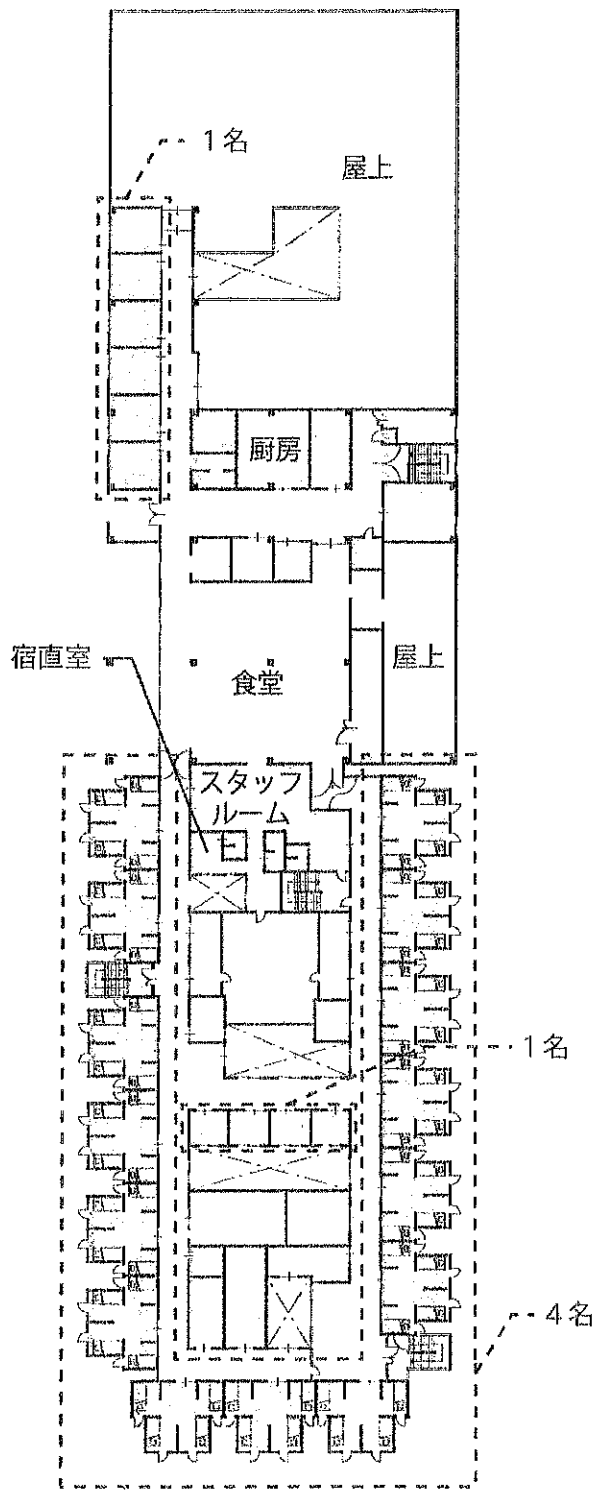


1階平面図 (Scale: 1/600)

東海地方 [AS]



1階平面図 (Scale : 1/600)

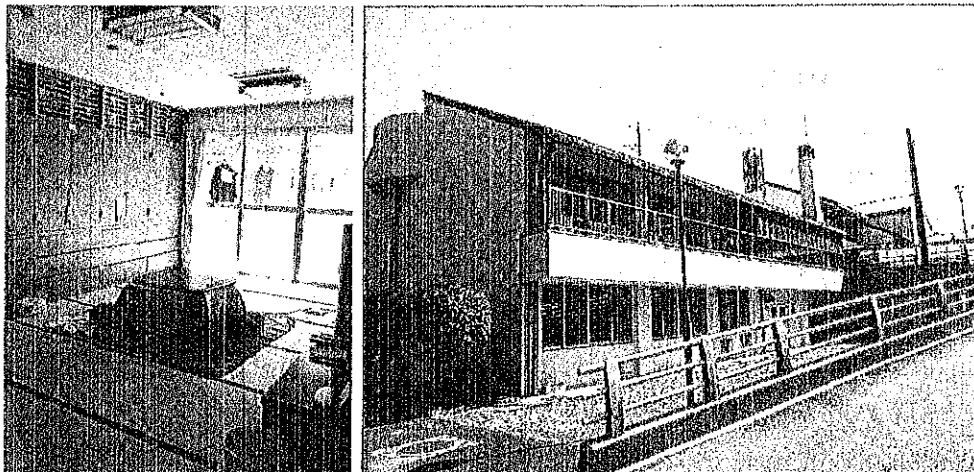


2階平面図 (Scale : 1/600)

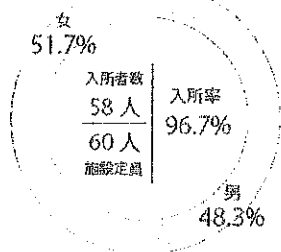
東海地方 [AA]

(A 県内の救護施設 4 軒)

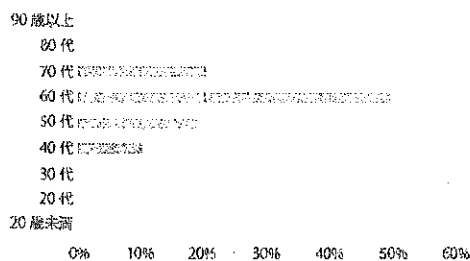
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1961
 築年数 (現存施設)
 29
 併設施設の有無
 無
 障害種別
 A-3 (精神障碍型)
 施設形態
 a-1 (単棟独立型)



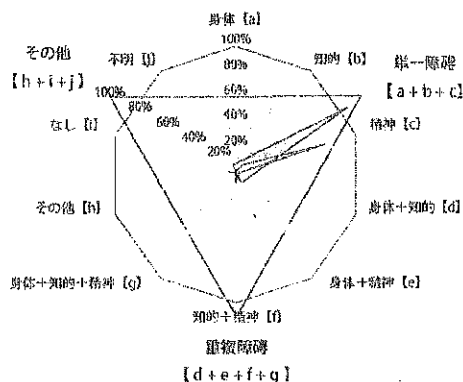
施設利用者の性別構成 (N=58)



施設利用者の年齢構成 (N=58)

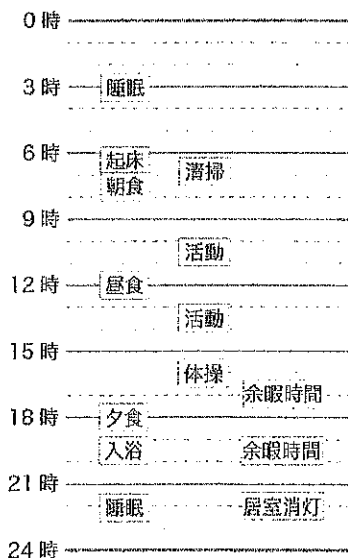


施設利用者の障害構成 (N=58)

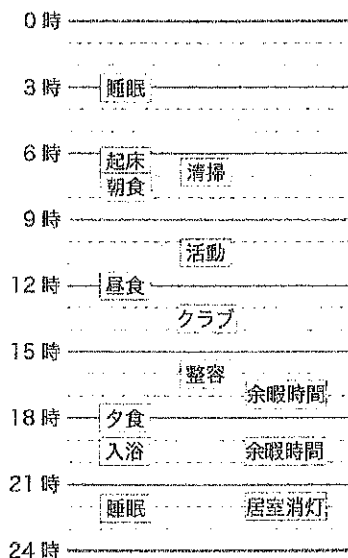


1日の生活時間 (利用者)

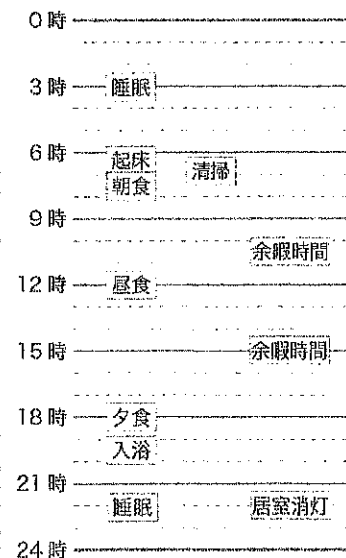
利用者の1日の生活時間 (月・水・木)



利用者の1日の生活時間 (火・金)



利用者の1日の生活時間 (土・日)



東海地方 [AA]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和 36 年 10 月 (1961) に現在地に開設され、昭和 61 年 6 月 (1986) に改築工事を実施している。現行施設は、昭和 63 年 3 月 (1988) に竣工しており、運営に関して、平成 23 年より A 県から現行法人に移譲されている。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造であり、敷地面積 10602.71m² に対して、延床面積 1566.8m² であった。施設形態は単棟独立型で 3 階建であった。1 階部分に施設の維持管理に供用される空間及び、職員に供用される空間が配置されている。2 階部分には、利用者居室を含む利用者の供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。3 階部分には、利用者居室を中心に配置がなされている。なお、職員アプローチは 1 階、利用者アプローチは 2 階にそれぞれ配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性 48.3%、女性 51.7% であり、入所者数は定員 60 名に対して 58 名であった (アンケート回収時: 2016/11)。利用者の障害種別は A-3 で精神障害を中心に利用がなされている。性別による利用者の居室配置を行っており、女子寮は 2 階、男子寮は 3 階にそれぞれ定員 30 名で配置されている。そのため、入所者の男女比率は同程度に維持されている。利用者の障害状況については、寝具様式を変更することで対応を図っている。

④居室環境に関して

居室は定員 4 名をベースに定員 6 名の居室が 2 室のみ設置されている。居室面積は、定員 4 名 20.5m² (12 室)、定員 6 名 27.0m² (2 室) であった。居室設備は空調設備・収納・ベッドであった。いずれの居室も間仕切りは設置していない。基本的には畳且つ布団が採用されているが、利用者の生活能力に応じてベッドを導入している居室もある。

⑤公共空間に関して

食堂の座席は固定制である。作業室が別棟に配置されているが、利用者の高齢化や障害状況の多様化に伴い、実施できる作業に限りがある。

⑥ヒアリング調査の抜粋

ヒアリング調査では、食堂の混雑が挙げられた。この意見は、利用者の食事や作業の移動時、利用者の介助度が自立可能な他の救護施設でもみられた。

【施設ゾーニング凡例】

利用者の居室空間

居室以外の共用空間

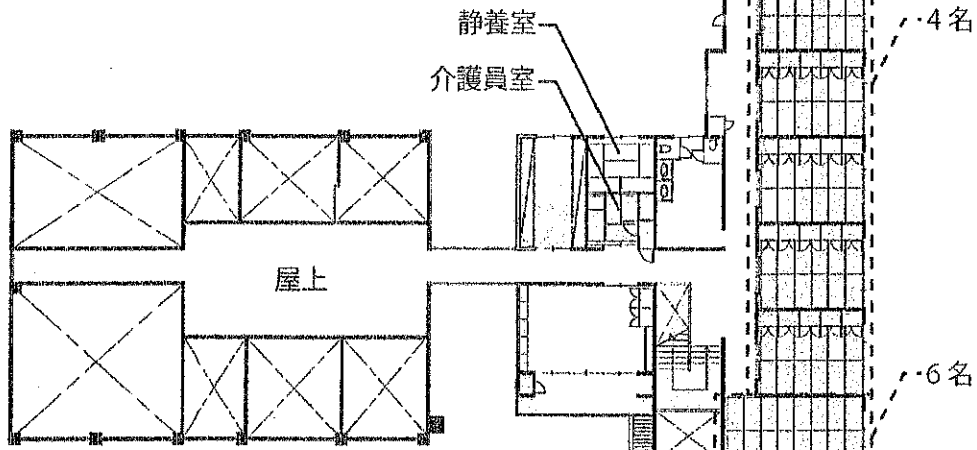
職員の空間

維持管理の空間

垂直動線の空間

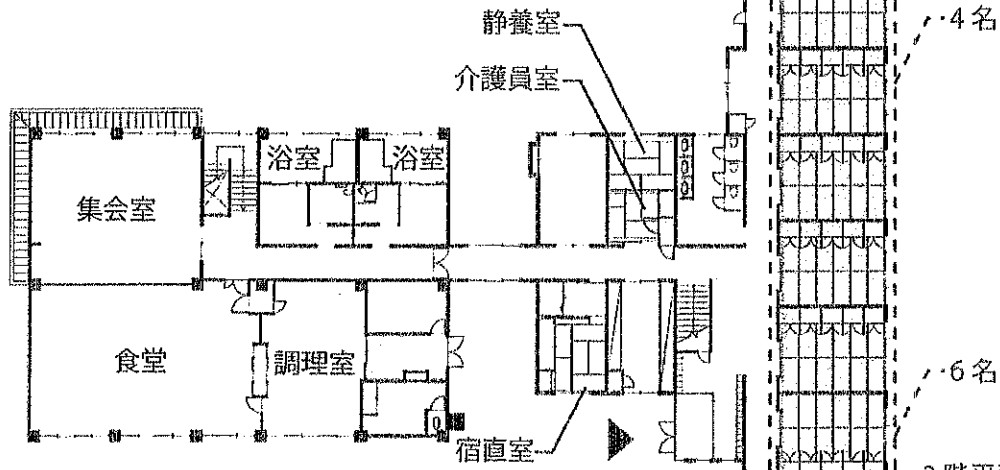
[現行施設] 1988年竣工

男性フロア



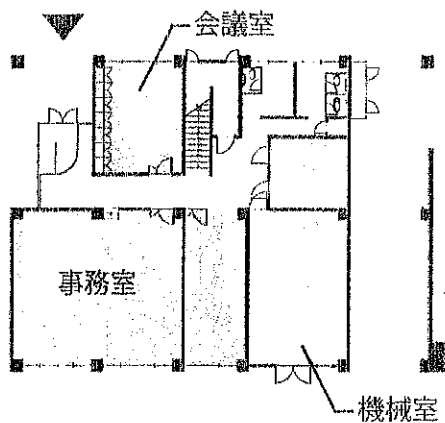
3階平面図 (Scale: 1/400)

女性フロア



2階平面図 (Scale: 1/400)

作業室 (スケール不明)



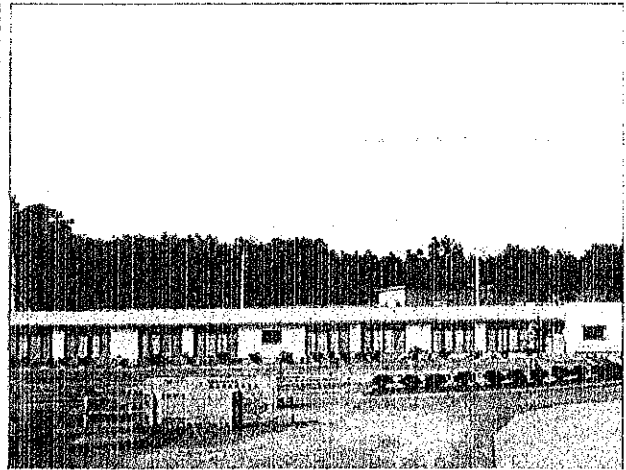
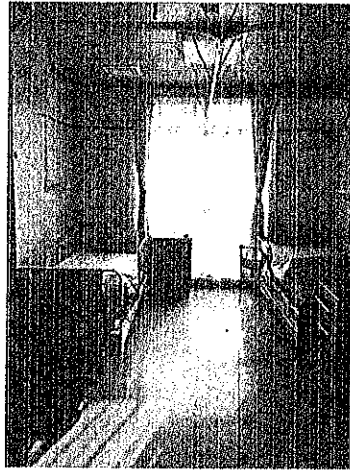
1階平面図 (Scale: 1/400)

東海地方 [AA]

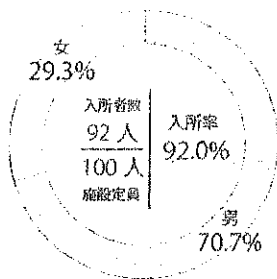
近畿地方 [SH]

(S 県内の救護施設 5 軒)

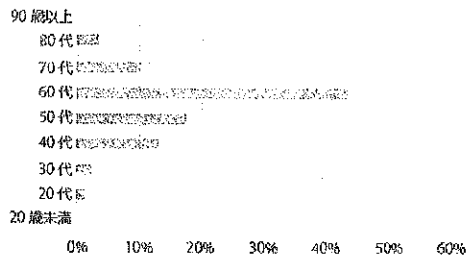
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1970
 築年数 (現存施設)
 47
 併設施設の有無
 無
 障害種別
 B-1 (混合如週型)
 施設形態
 b-3 (分棟多翼型)



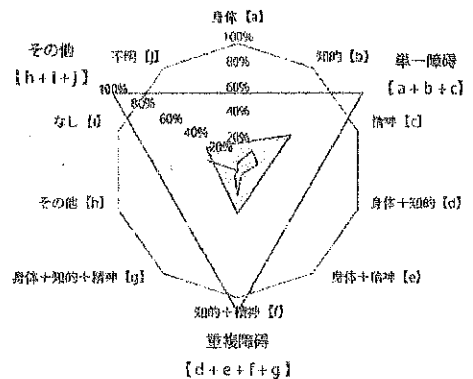
施設利用者の性別構成 (N=92)



施設利用者の年齢構成 (N=92)

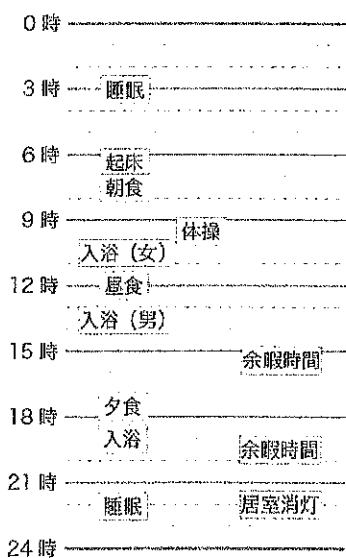


施設利用者の障害構成 (N=92)

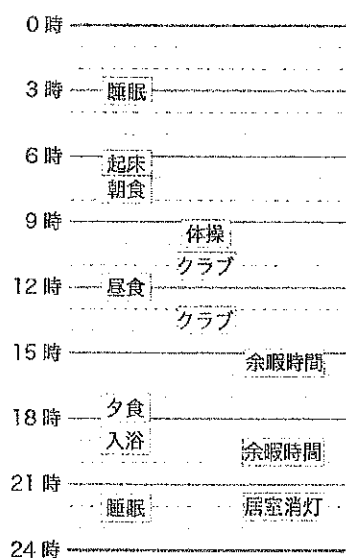


1日の生活時間 (利用者)

利用者の1日の生活時間 (月・水・金)



利用者の1日の生活時間 (火・木)



利用者の1日の生活時間 (土・日)



近畿地方 [SH]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和45年6月(1970)にS県により県立施設として開設される。その後、平成9年～平成11年にかけて居住棟を順次建て替え。平成23年4月(2011)に現行の法人にS県より移管され、平成24年3月(2012)にサービス棟及び、管理棟建て替えが行われている。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造と鉄骨造の混構造であり、敷地面積11500m²に対して、延床面積5514.1m²であった。施設形態は分棟多翼型で平屋建てであり、全ての設備が配置されている。管理棟に基本的な職員に供用される空間が配置されており、医務室や支援員室が居住棟に設置されている。なお、アプローチは各棟に設置されており、各棟は渡り廊下を通じて接続されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性70.7%、女性29.3%であり、入所者数は定員100名に対して92名であった(アンケート回収時:2016/11)。利用者の障害種別はB-1で障害状況を問わず様々な利用がなされている。居室棟は3棟設置しており、原則的には男女別々の棟を利用しているが、男性割合の増加に伴い、全介助の男性のみ女性棟に入所している。

④居室環境に関して

居室は定員2名をベースに個室10室と定員4名6室が設置されており、居室面積は、定員2名17.2m²(33室)、個室14.6m²(10室)、定員4名33.6m²(6室)であった。居室設備は空調設備・収納・寝具であり、寝具はベッドと布団の併用である。利用者のADL低下に伴い洋室化を進めている。

⑤公共空間に関して

食堂の座席は一部指定されているが、基本的には自由である。平成24年のサービス棟の建て替えに伴い、食堂を中心とする作業室や浴室の施設環境が向上したことで食堂が談話室と併用されて、利用者の居場所となっている。

⑥ヒアリング調査の抜粋

[SH] 施設においては、建て替えに関して、各棟の解体と新棟の建設を1棟ずつ繰り返すことで利用者の負担を軽減することができた。一方で、居室棟は管理棟やサービス棟と比べて、築年数が経過しているため、施設屋内の臭いや汚れなど衛生面の劣化が顕在化してきている。

延床面積に関して

・法人定款より転載

敷地面積に関して

・提供図面より概算

敷地面積:11500m²

[施設ゾーニング凡例]

利用者の居室空間

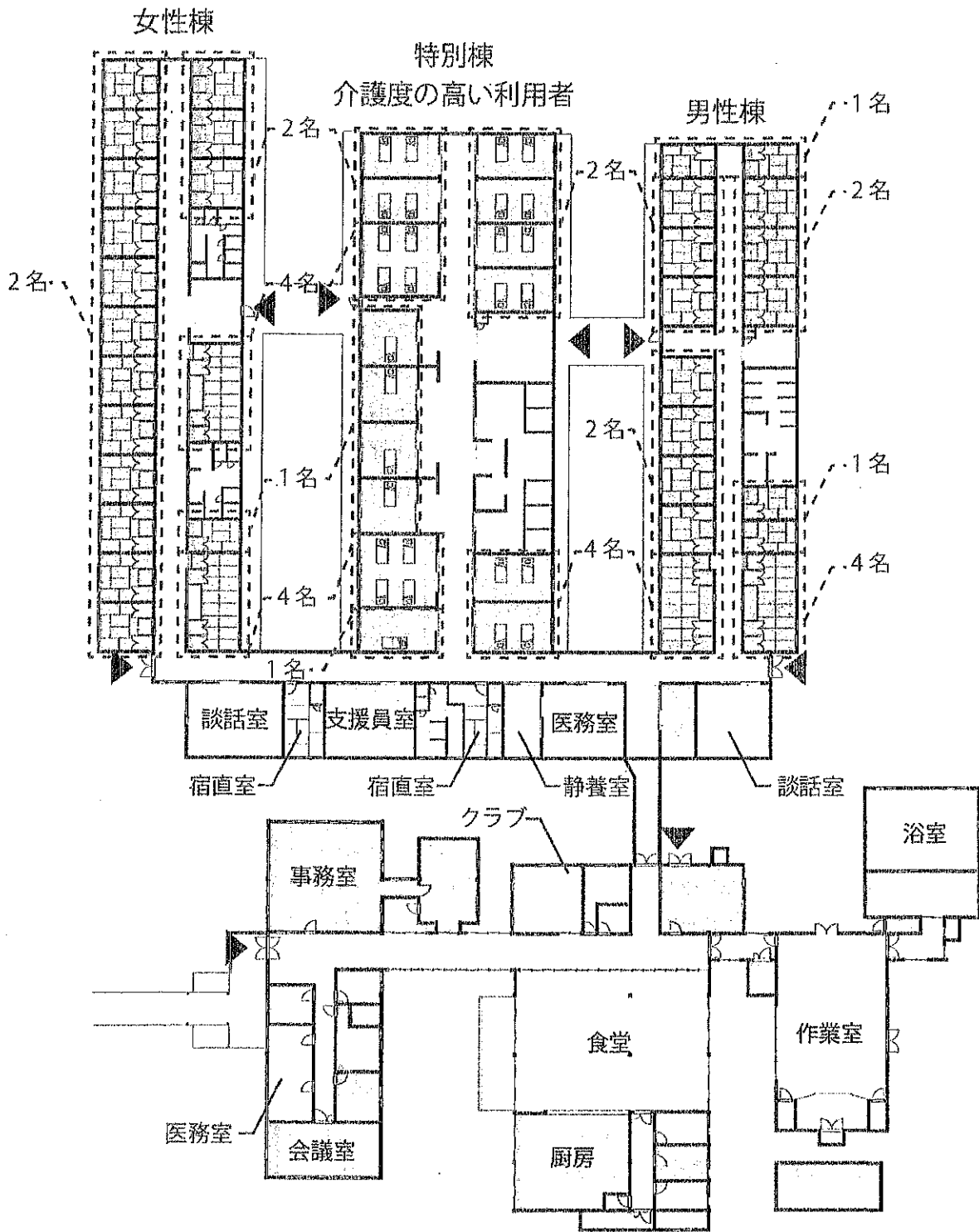
居室以外の共用空間

職員の空間

維持管理の空間

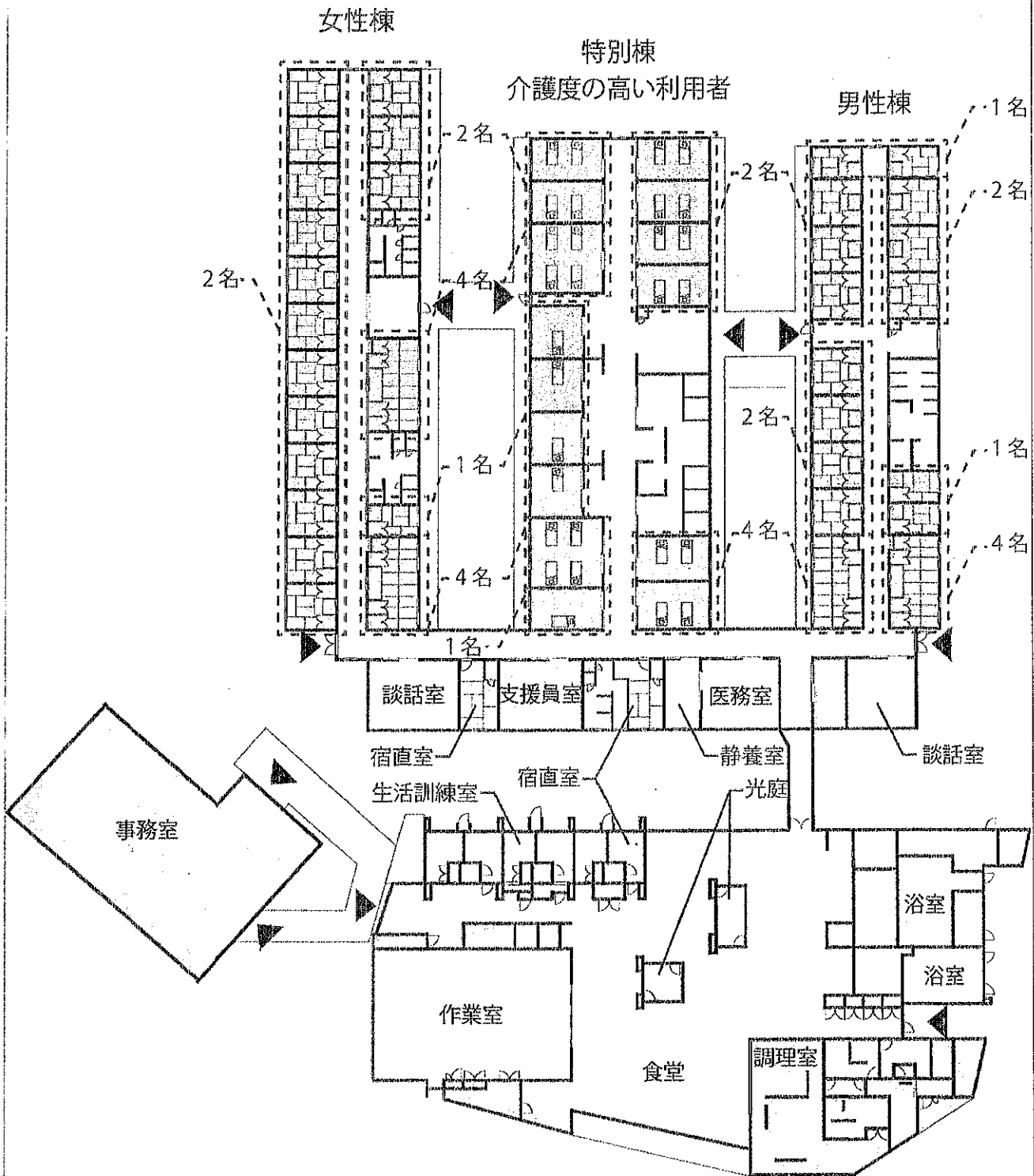
垂直動線の空間

旧施設 [現行施設] 1970年竣工 (1997年~2000年:居住棟改築)



1階平面図 (Scale: 1/500)

近畿地方 [SH]



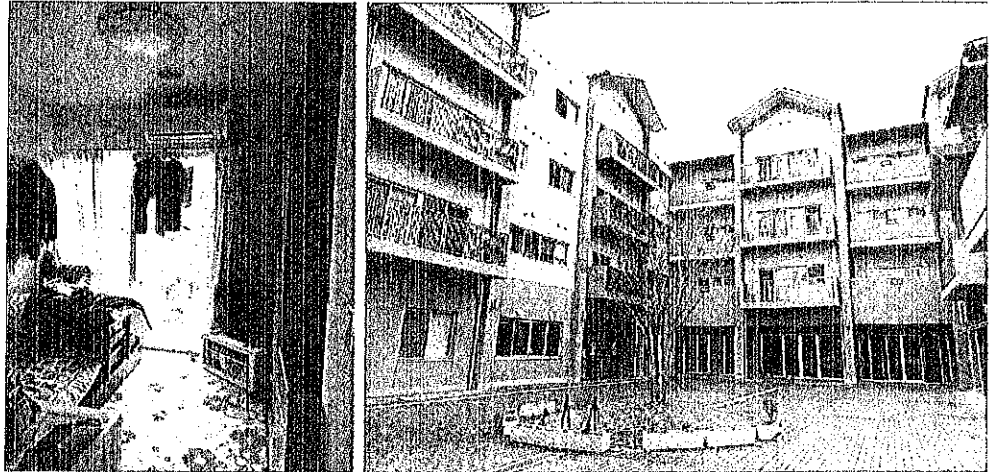
1階平面図 (Scale : 1/500)

近畿地方 [SH]

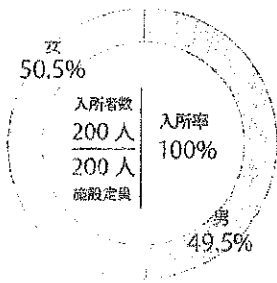
近畿地方 [TO]

(○府内の救護施設 18 軒)

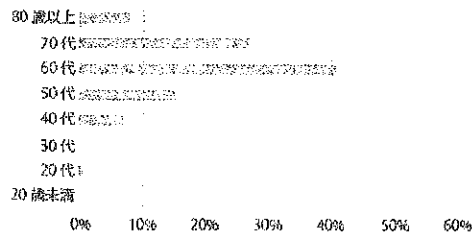
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1952
 築年数 (現存施設)
 9
 併設施設の有無
 無
 障害種別
 A-3 (精神障碍型)
 施設形態
 a-3 (単棟多翼型)



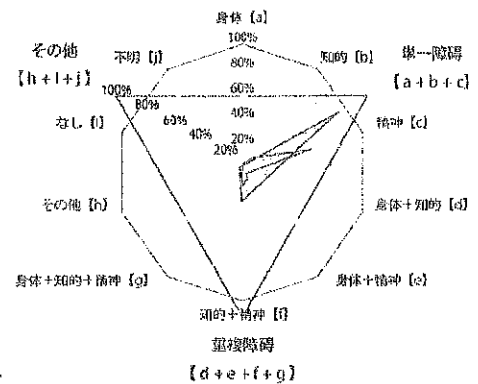
施設利用者の性別構成 (N=200)



施設利用者の年齢構成 (N=200)

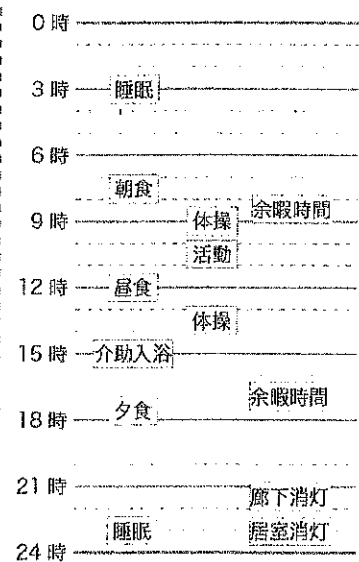


施設利用者の障害構成 (N=200)

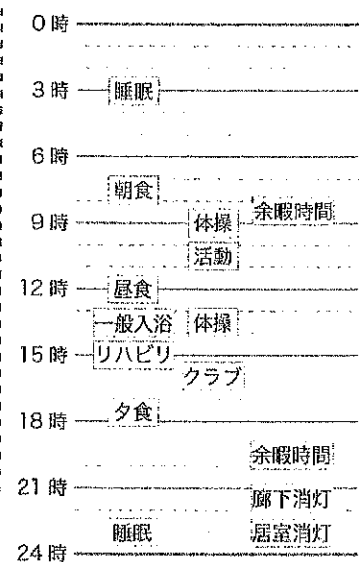


1日の生活時間 (利用者)

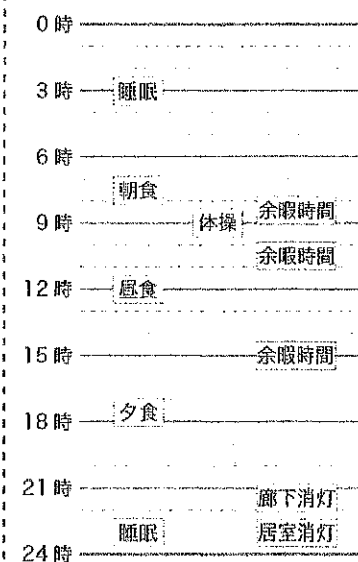
利用者の1日の生活時間 (月・水・金)



利用者の1日の生活時間 (火・木・土)



利用者の1日の生活時間 (日)



近畿地方 [T0]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和 27 年 (1952) に生活保護法に基づく救護施設として [T0] 開設され、当初は定員 80 名であったが、1960 年の建物増築に伴い 111 名に変更された。昭和 69 年 (1944) に 0 市内の [N0] 施設と統廃合されることで、現行の定員 200 名となった。現行施設は、平成 20 年 (2008) に現在地に新築された。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造であり、敷地面積 6527.54m² に対して、延床面積 7798.65m² であった。施設形態は単棟多翼型で 5 階建であった。1 階部分に職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。2 階部分に一部居室を除く利用者に供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。3 階及び 4 階、5 階部分には居室を中心に職員に供用される空間が一部配置されている。なお、アプローチは 1 階と 2 階に利用者入口と職員入口がそれぞれ配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性 49.5%、女性 50.5% であり、入所者数は定員 200 名に対して 200 名であった (アンケート回収時: 2016/11)。利用者の障害種別は A-3 で精神障害を中心に利用がなされている。ユニットケアを採用しており、5 階に自立した女性 (4 ユニット)、4 階に自立した男性 (4 ユニット)、3 階には介助の必要な男性と女性がそれぞれ 2 ユニットずつ配置されている。

④居室環境に関して

居室は全室個室が設置されており居室面積は、個室 8.31m² (200 室) であった。居室設備は空調設備・収納・寝具、一部居室には椅子・机であり、寝具は全てベッドが採用されている。各居室には前室が設置されており、4 つの居室で前室を共有するケースと 2 つの居室で前室を共有するケースが存在する。

⑤公共空間に関して

多くの施設が 1 箇所の食堂を設置しているが [T0] 施設においては、各階に食堂を設置しており、食事の際の利用者の座席は固定制である。

⑥ヒアリング調査の抜粋

現行施設の前身施設は、2 階建で全室 8 畳間 (4 人部屋) が採用されていた。現行施設への移行に伴い、階層の変化や個室化及び、各階に食堂を設置することによる利用者同士の関係性が気薄になりつつある。

居室面積に関して

居室総面積より

1 室面積を算出

居室総面積 1663.7m²

[施設ゾーニング凡例]

利用者の居室空間

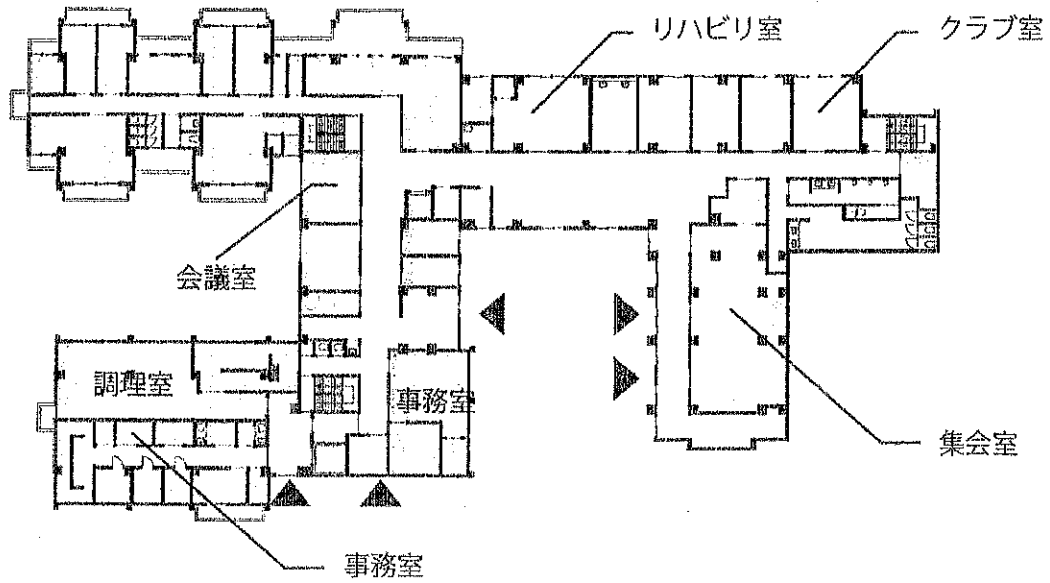
居室以外の共用空間

職員の空間

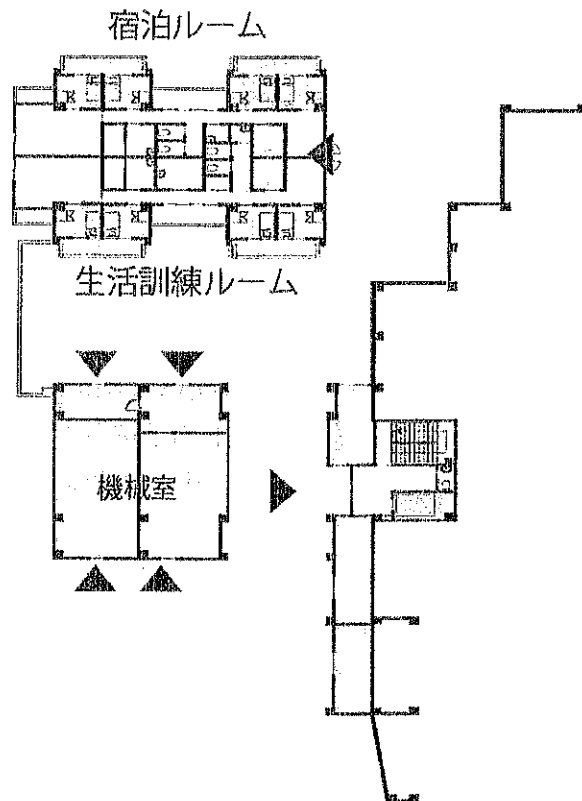
維持管理の空間

垂直動線の空間

[現行施設] 2008年竣工



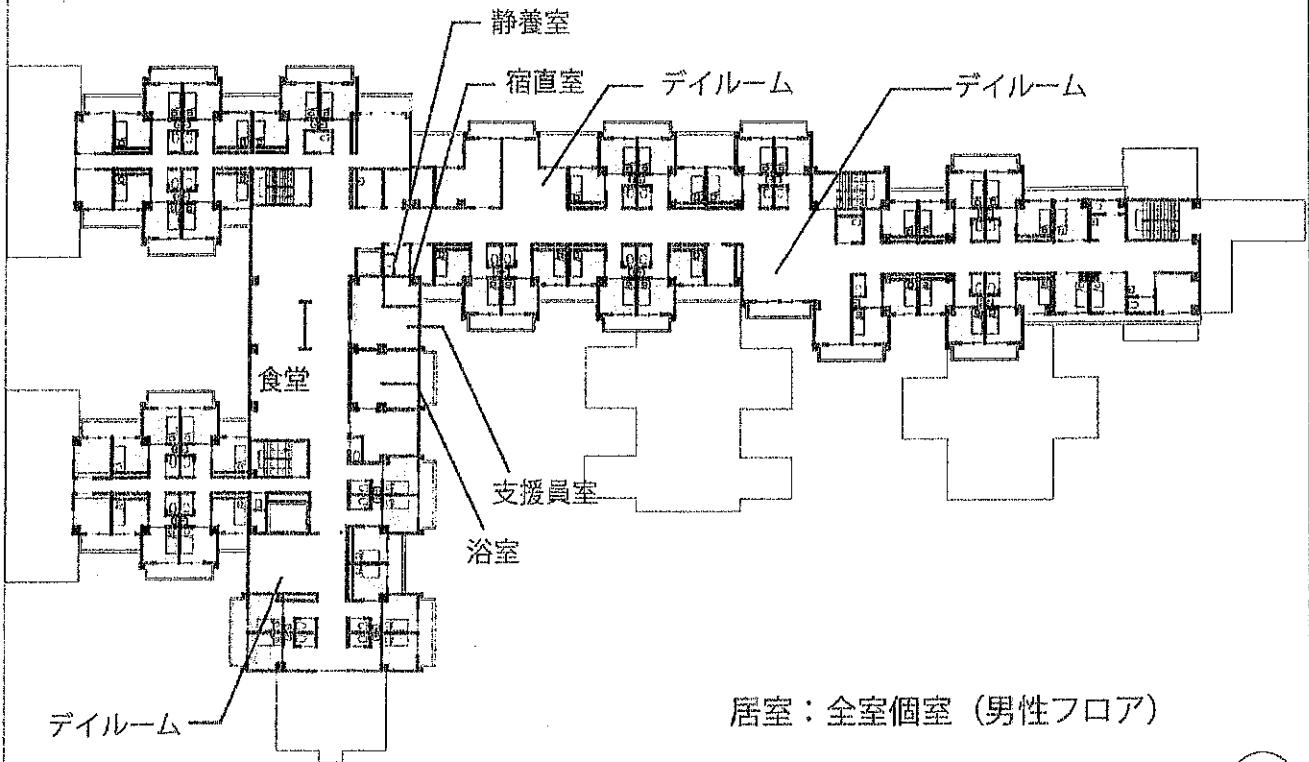
2階平面図 (Scale : 1/600)



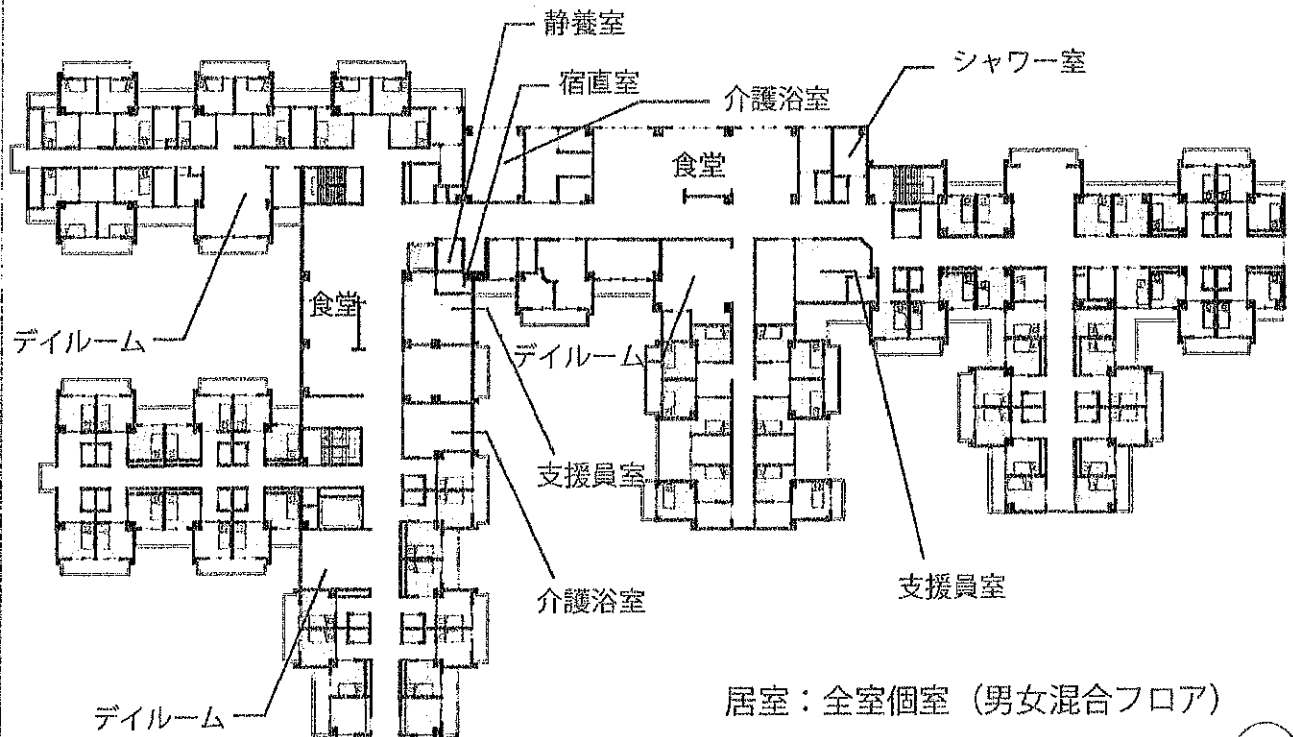
1階平面図 (Scale : 1/600)

近畿地方 [TO]

[現行施設]



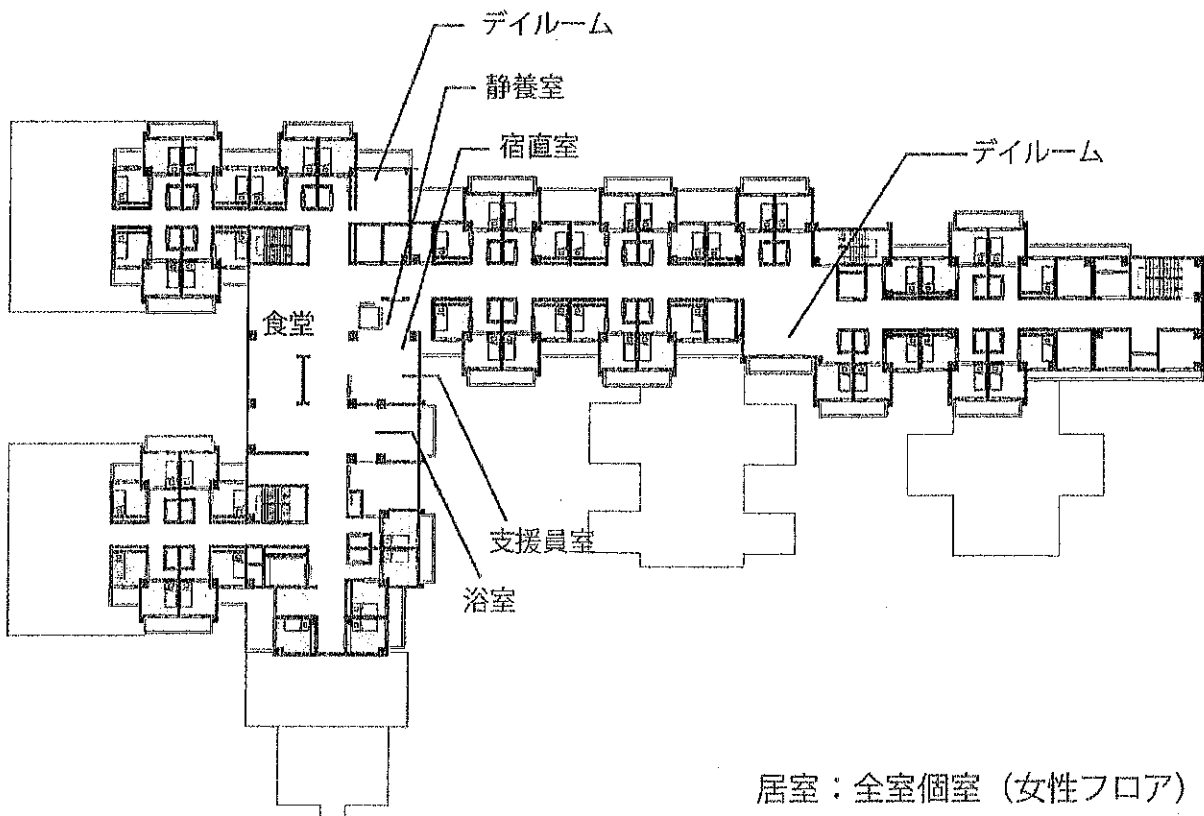
4階平面図 (Scale: 1/600)



3階平面図 (Scale: 1/600)

近畿地方 [TO]

[現行施設]



5階平面図 (Scale : 1/600)

近畿地方 [TO]

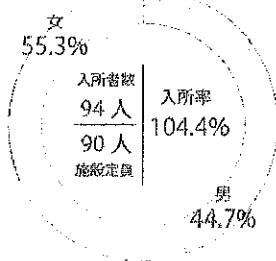
近畿地方 [OF]

(○ 府内の救護施設 18 軒)

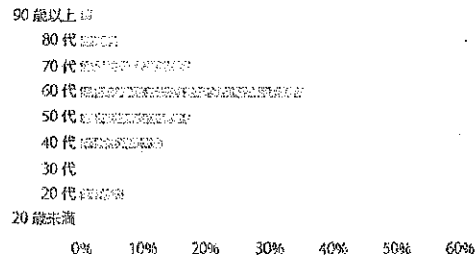
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1948 (1952)
 築年数 (現存施設)
 13
 併設施設の有無
 有 (医療施設)
 障害種別
 A-3 (精神障害型)
 施設形態
 a-2 (単棟回廊型)



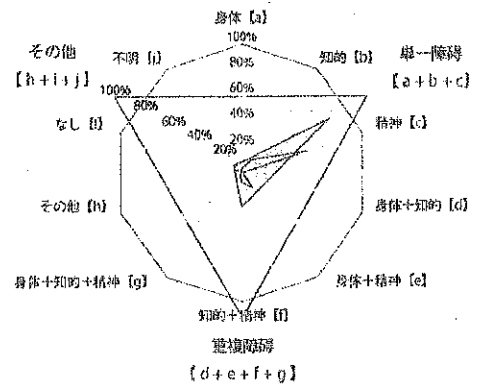
施設利用者の性別構成 (N=94)



施設利用者の年齢構成 (N=94)

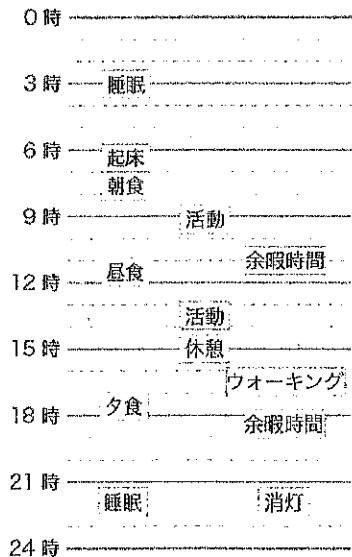


施設利用者の障害構成 (N=94)

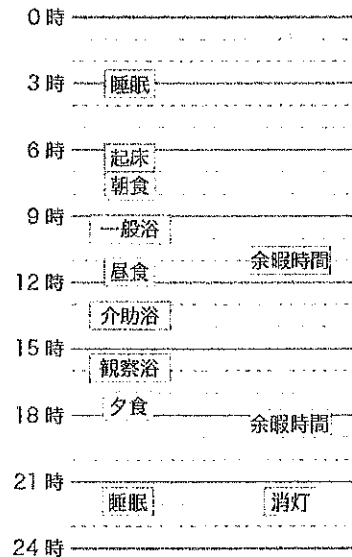


1日の生活時間 (利用者)

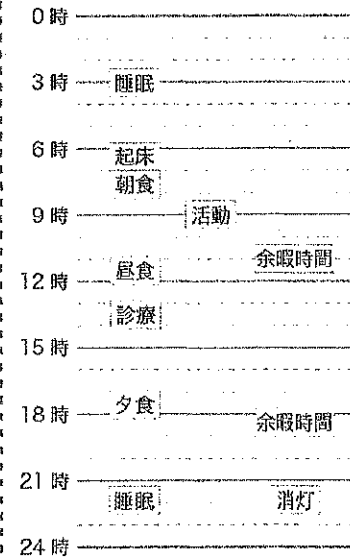
利用者の1日の生活時間 (火・木・土)



利用者の1日の生活時間 (月・金)



利用者の1日の生活時間 (水)



近畿地方 [OF]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和 23 年 (1948) に浮浪者救済医療施設として精神病院の付属施設として開設。その後、昭和 27 年 (1952) に生活保護に基づく救護施設の認可を受けて、F 院に改称。昭和 39 年 (1961) に 1 度目の改築がなされ、現行施設は平成 16 年 10 月 (2004) に [OF] 施設として開設されている。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造であり、敷地面積 8206.45m² に対して、延床面積 3364.25m² (K 病院 4501.25 m²) であった。施設形態は単棟回廊型で 3 階建であった。1 階部分に居室を含む利用者に供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。また、2 階及び 3 階部分に居室を中心に職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。アプローチは 1 階に配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性 44.7%、女性 55.3%であり、入所者数は定員 90 名に対して 94 名であった (アンケート回収時：2016/11)。利用者の障害種別は A-3 で精神障害を中心に利用がなされている。他の見学施設は低層階に障害状況の重い利用者を配置するケースが基本的にみられた。一方、[OF] 施設においては、3 階に地域移行の難しい利用者、2 階にやや介護度の高い利用者、1 階に地域移行を目指す利用者をそれぞれ配置している。

④居室環境に関して

居室は定員 4 名をベースに個室と定員 2 名がそれぞれ設置されており居室面積は、定員 4 名 8.2m² (21 室)、個室 8.2m²~9.8m² (6 室)、定員 2 名 6.0m²~7.60m² (3 室) であった。居室設備は空調設備・収納・寝具・机・椅子を完備、寝具は全てベッドを併用しており、カーテンレールによる間仕切りが利用されている。各居室には、トイレ及び洗面の前室が設けられている。

⑤公共空間に関して

多くの施設が 1 箇所の食堂を設置しているが [OF] 施設においては、各階に食堂を設置しており、食事の際の座席は固定制である。

⑥ヒアリング調査の抜粋

改築当初は、階層によるコミュニティの固定化が懸念されたが、階層を跨いだ相互扶助も日常的に行われている。隣接する病院との相互連携がある。

[施設ゾーニング凡例]

利用者の居室空間

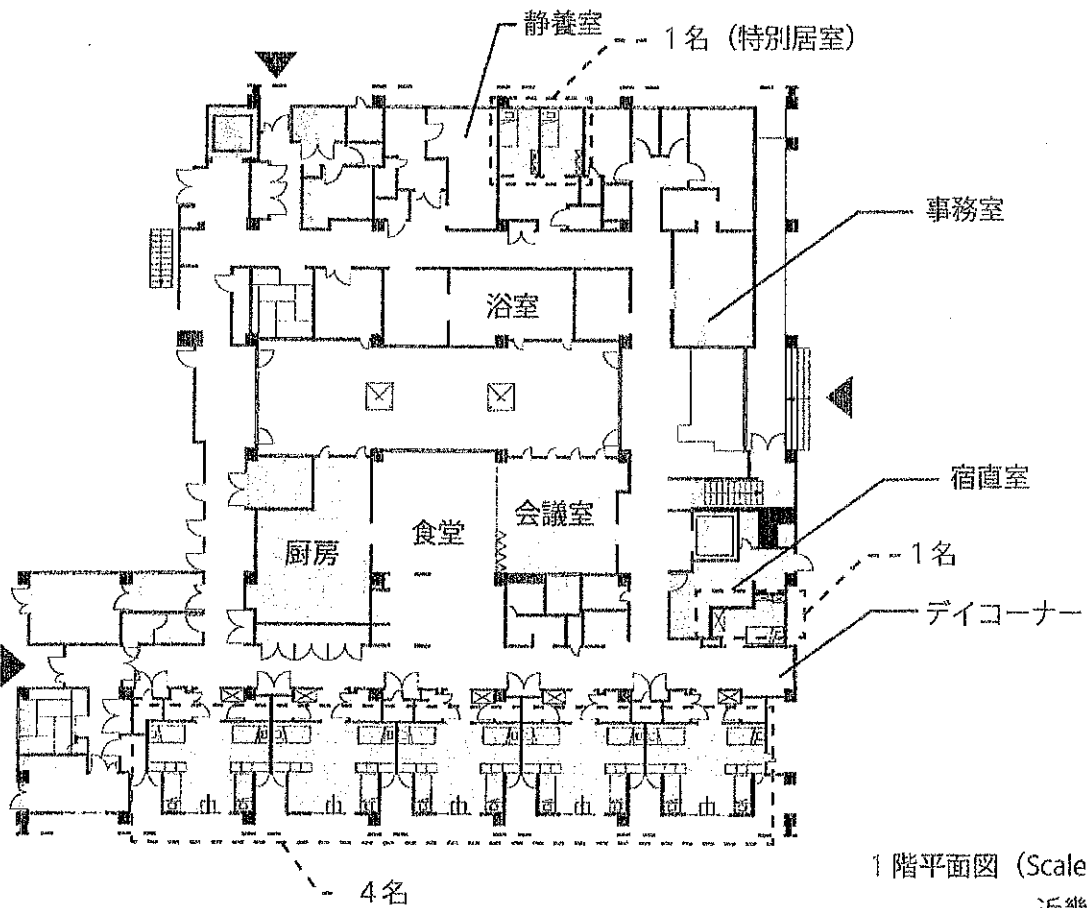
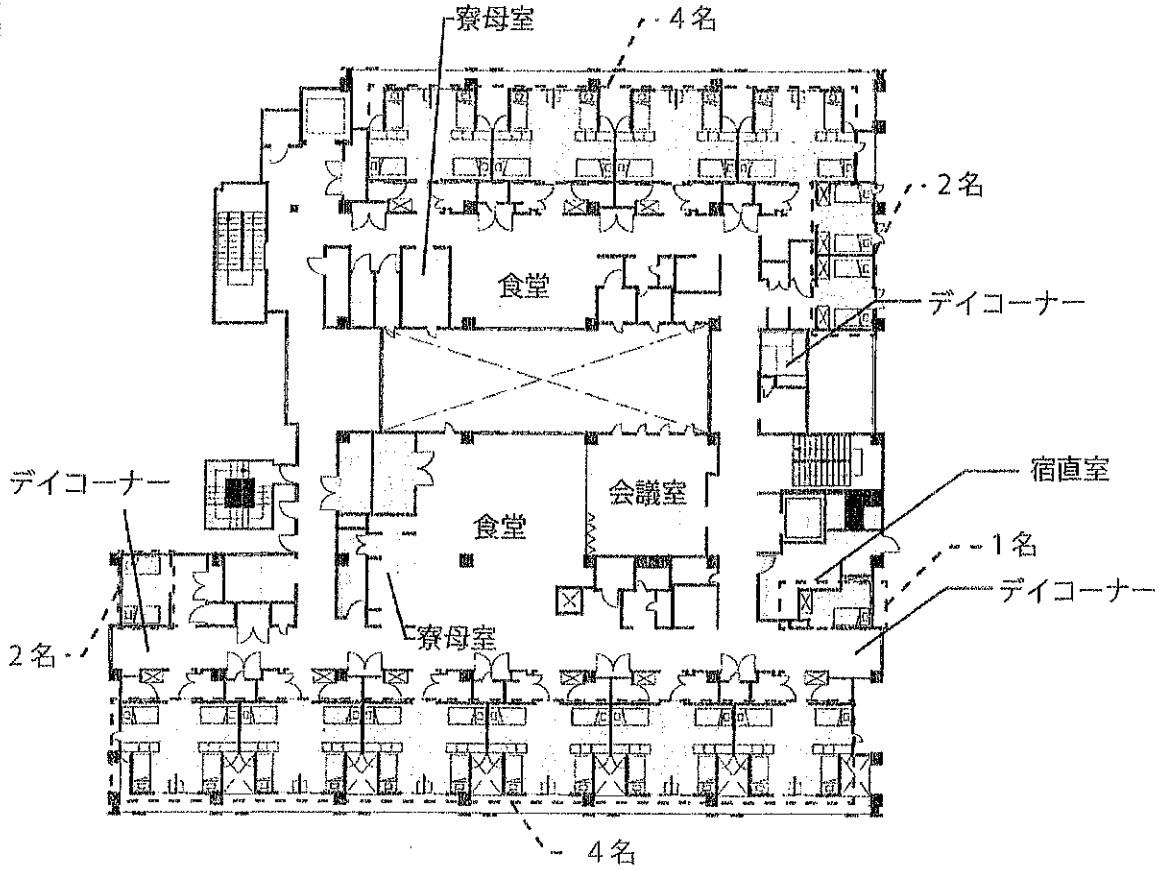
居室以外の共用空間

職員の空間

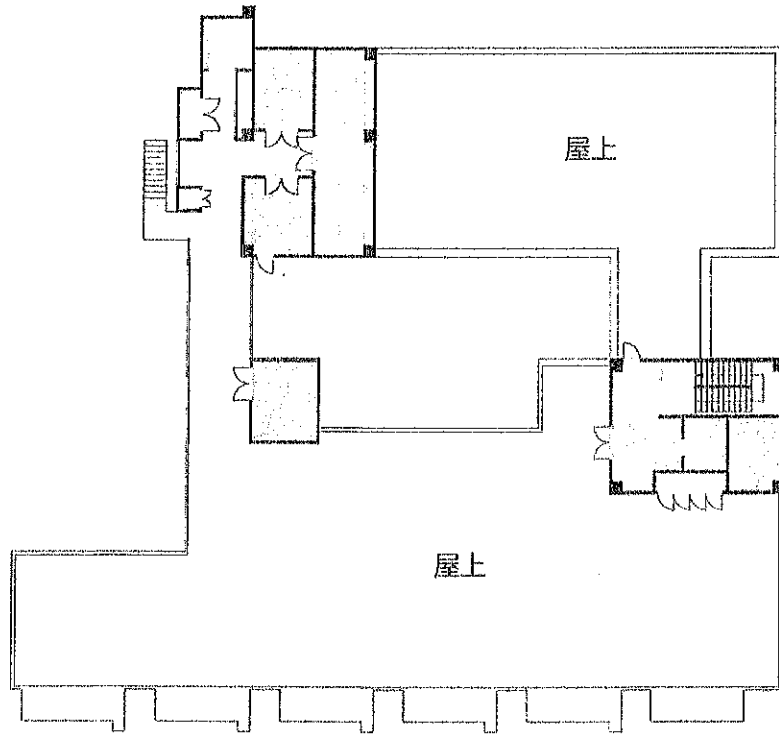
維持管理の空間

垂直動線の空間

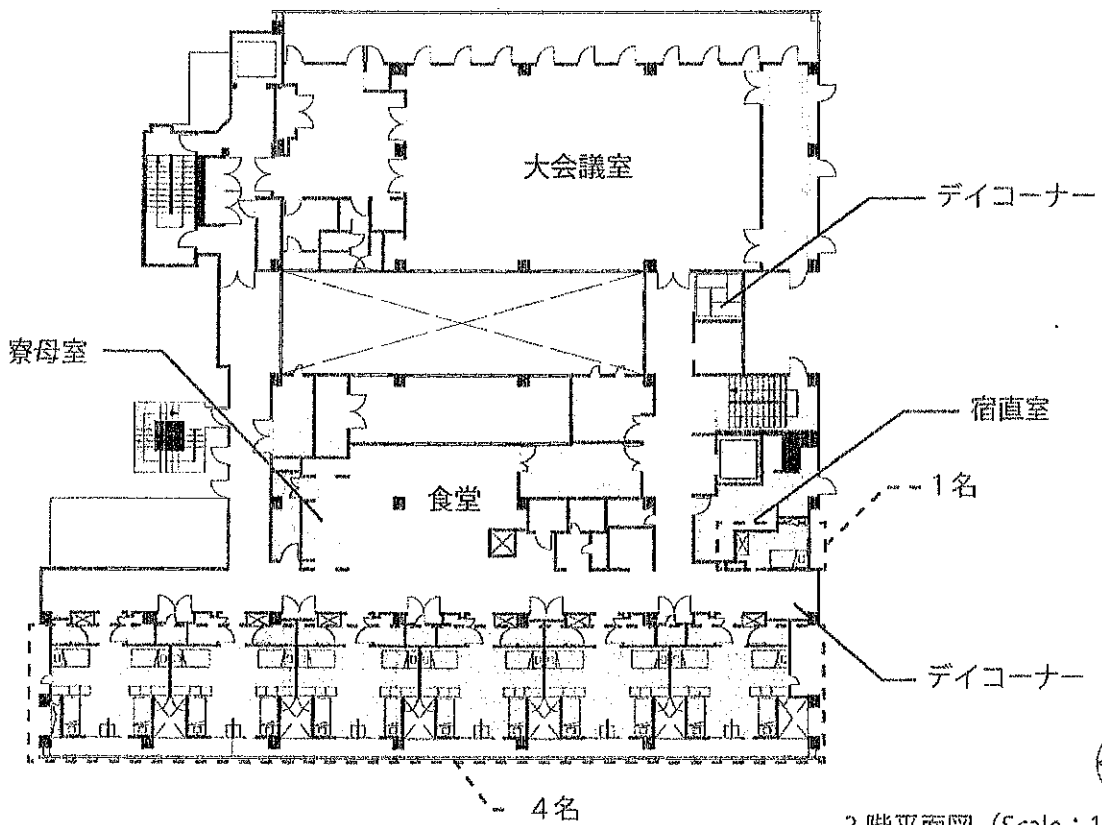
[現行施設] 2004年竣工



[現行施設]



R階平面図 (Scale : 1/400)



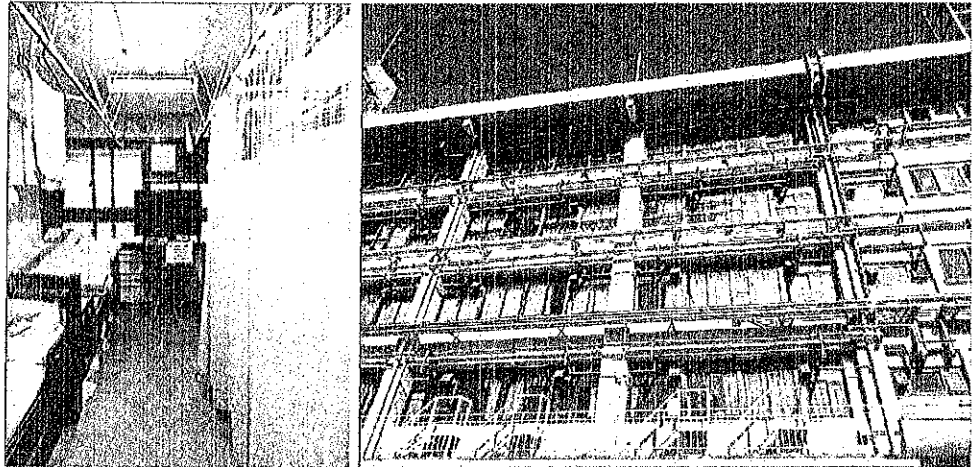
3階平面図 (Scale : 1/400)

近畿地方 [OF]

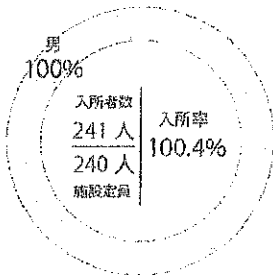
近畿地方 [OH]

(○府内の救護施設 18 軒)

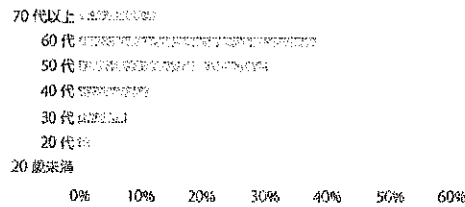
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1912 (1967)
 築年数 (現存施設)
 50
 併設施設の有無
 有 (障害者支援施設)
 障害種別
 B-1 (混合処遇型)
 施設形態
 a-1 (単棟独立型)



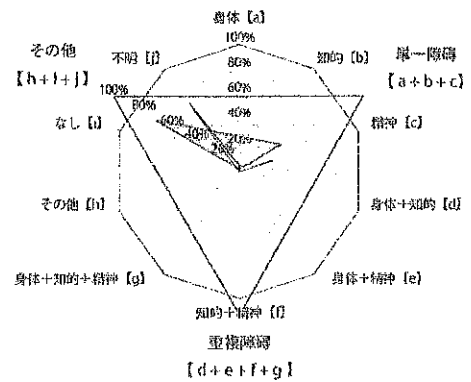
施設利用者の性別構成 (N=241)



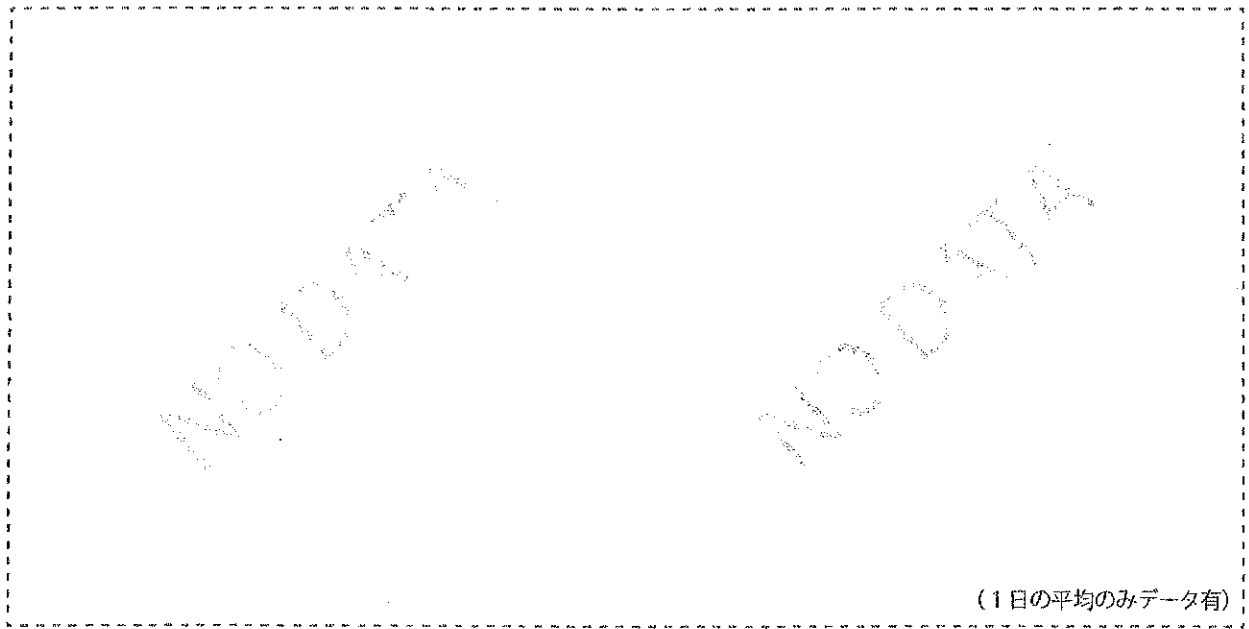
施設利用者の年齢構成 (N=241)



施設利用者の障害構成 (N=241)



1日の生活時間 (利用者)



(1日の平均のみデータ有)

近畿地方 [OH]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
- ④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

明治45年(1912)にO市内K地区において、宿泊保護・職業紹介・授産事業を開始。その後、昭和22年(1947)に更生施設の認可を受け、昭和27年(1952)に更生施設Z寮を開設。救護施設[OH]については、昭和42年(1967)に開設され、現在に至る。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造及び鉄骨造で敷地面積 3459.46m² に対して、延床面積 7840.64m² であった。施設形態は単棟独立型で5階建であった。1階部分に食堂及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。2階から4階部分に居室を含む利用者に供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。5階部分に作業室及び職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。なお、アプローチは1階に配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は男性100%である。入所者数は定員240名に対して241名であった(見学調査時:2017/11)。障害種別は、B-1で障害状況を問わず様々な利用がなされており、2階に精神障害を有する利用者を配置している。

④居室環境に関して

居室は定員4名~5名をベースに一部定員6名の居室が設置されている。居室面積は計測を行っていない。居室設備は空調設備・収納・寝具であった。基本的には洋室且つベッドが採用されており、ベッド周りにカーテンレールによる分節が行われている。

⑤公共空間に関して

見学施設では、食堂と居室階数が同一階に存在する施設が多いが、[OH]は食堂と居室階数が異なっており、食堂に関しては入口と出口が異なる。

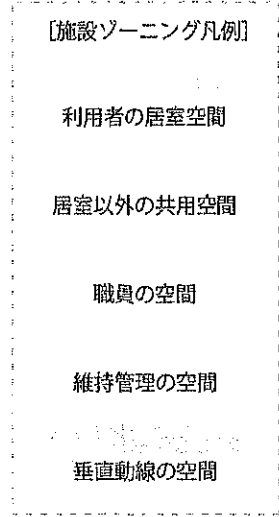
⑥ヒアリング調査の抜粋

救護施設[OH]の他、同一県内及び隣接県に6つの救護施設を運営している。S県に3施設うち2施設においては、障害状況の重度な利用者及び、車椅子利用者(20名前後)を配置している。O市内の3施設に関しても、利用者の障害状況に応じて細やかな配置がなされている。

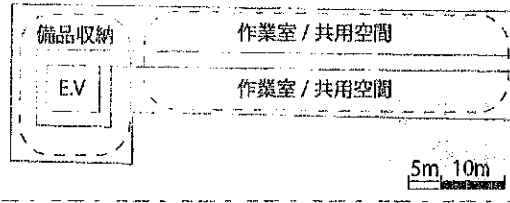
敷地面積

延床面積に関して

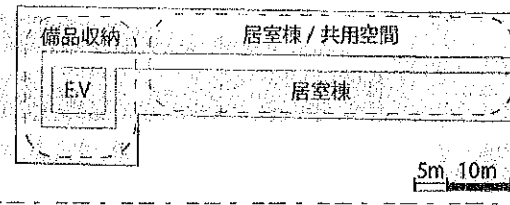
決算報告書財産目録より概算



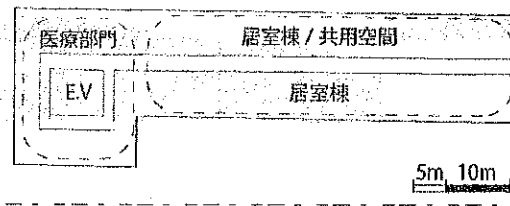
[現行施設] 1967年竣工



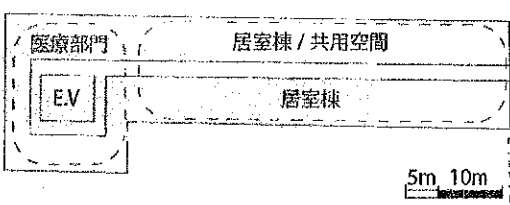
5F 概略図 (scale: 不明)



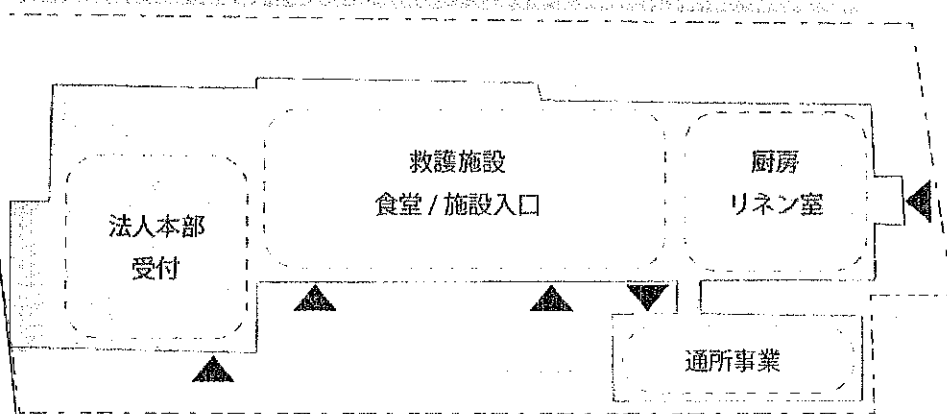
4F 概略図 (scale: 不明)



3F 概略図 (scale: 不明)



2F 概略図 (scale: 不明)



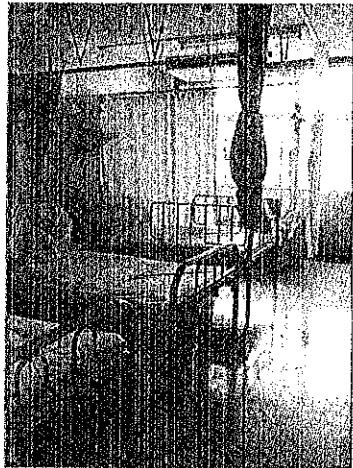
1階平面図 (Scale: 不明)

近畿地方 [OH]

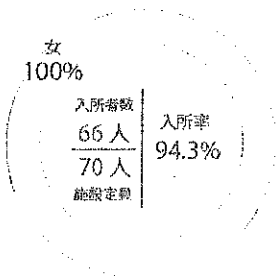
中国地方 [OT]

(○ 県内の救護施設 6 軒)

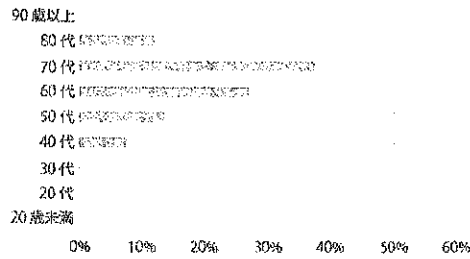
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1882 (1955)
 築年数 (現存施設)
 36
 併設施設の有無
 無
 障害種別
 B-1 (混合処遇型)
 施設形態
 a-1 (単棟独立型)



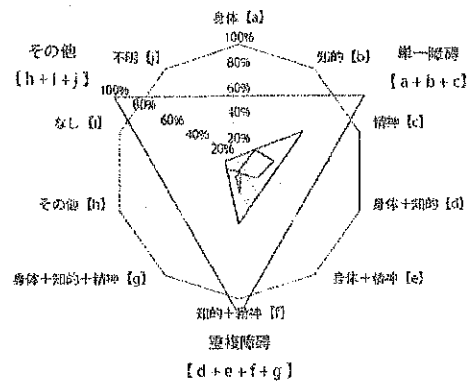
施設利用者の性別構成 (N=66)



施設利用者の年齢構成 (N=66)

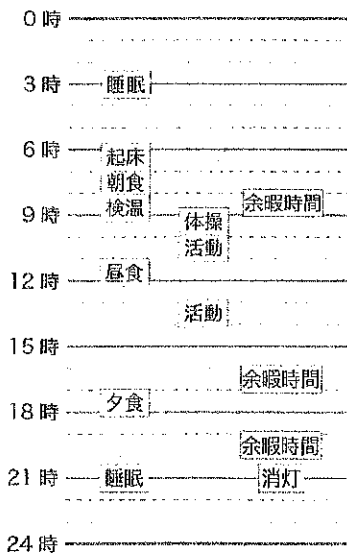


施設利用者の障害構成 (N=66)

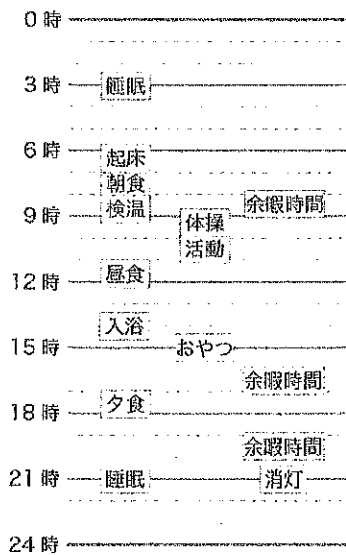


1日の生活時間 (利用者)

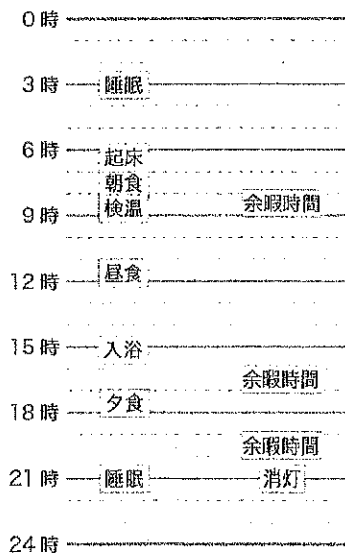
利用者の1日の生活時間 (月・水・金)



利用者の1日の生活時間 (火・木)



利用者の1日の生活時間 (土・日)



中国地方 [OT]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

明治 15 年頃 (1882)、K 村で海水浴兼保養所として開設される。その後、昭和 22 年 5 月 (1947) に生活保護法に基づく K 更生館が更生施設として開設され、昭和 30 年 11 月 (1955) に同施設が生活保護法による救護施設として変更される。現行施設は昭和 32 年 7 月 (1957) に K 村から現在地に新築移転が行われ、再度、昭和 56 年 7 月 (1981) に全面改築がなされた。なお、平成 18 年 4 月 (2006) から 0 県から現行法人の指定管理に変更された。

②建物構成に関して

構造は鉄筋コンクリート構造であり、敷地面積 4955.01m² に対して、延床面積 2263.23m² (機械棟 154.35 m² 含む) であった。施設形態は単棟独立型で 2 階建であった。1 階部分に居室を含む利用者に供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。2 階部分には居室を中心に職員に供用される空間が一部配置されている。なお、アプローチは 1 階に利用者入口と職員入口がそれぞれ配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、女性 100.0%であり、入所者数は定員 70 名に対して 66 名であった (アンケート回収時: 2016/11)。利用者の障害種別は B-1 で障害状況を問わず様々な利用がなされている。

④居室環境に関して

居室は定員 3 名と定員 4 名がそれぞれ 10 室ずつ設置されており、居室面積はいずれも 25.2m² であった。空調設備は集中管理であり、居室設備は空調設備・収納・寝具であり、寝具は主にベッドが採用されており、一部布団であった。居室に関しては、カーテンレールによる間仕切りが利用されている。

⑤公共空間に関して

1 階部分に食堂や作業室などの主要な公共空間を設置しているため、2 階のエレベーター利用者は食堂までの動線が長くなってしまう傾向にある。作業訓練については、女性のみのため作業内容に限りがある。

⑥ヒアリング調査の抜粋

[OT] 施設は、女性のみを対象とした救護施設である。そのため、介護職員など利用者の介護においては同性介助が採用されている。居室に関しては、利用者の生活能力や相性に応じて、3 名と 4 名部屋を利用している。

[施設ゾーニング凡例]

利用者の居室空間

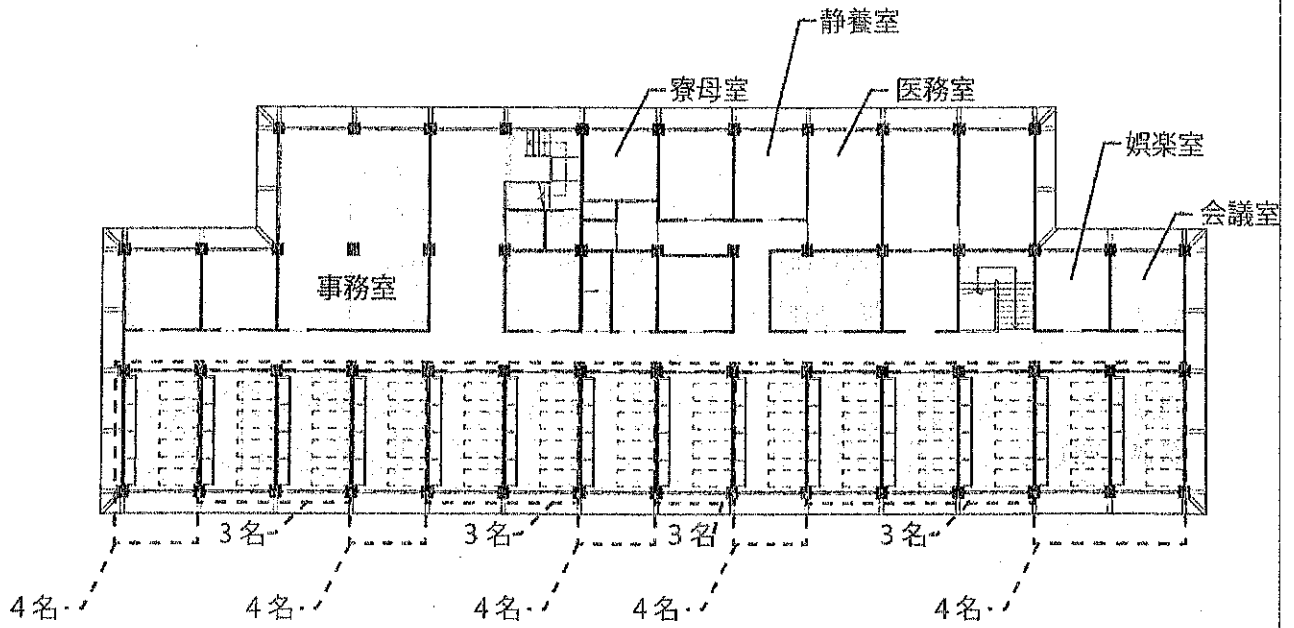
居室以外の共用空間

職員の空間

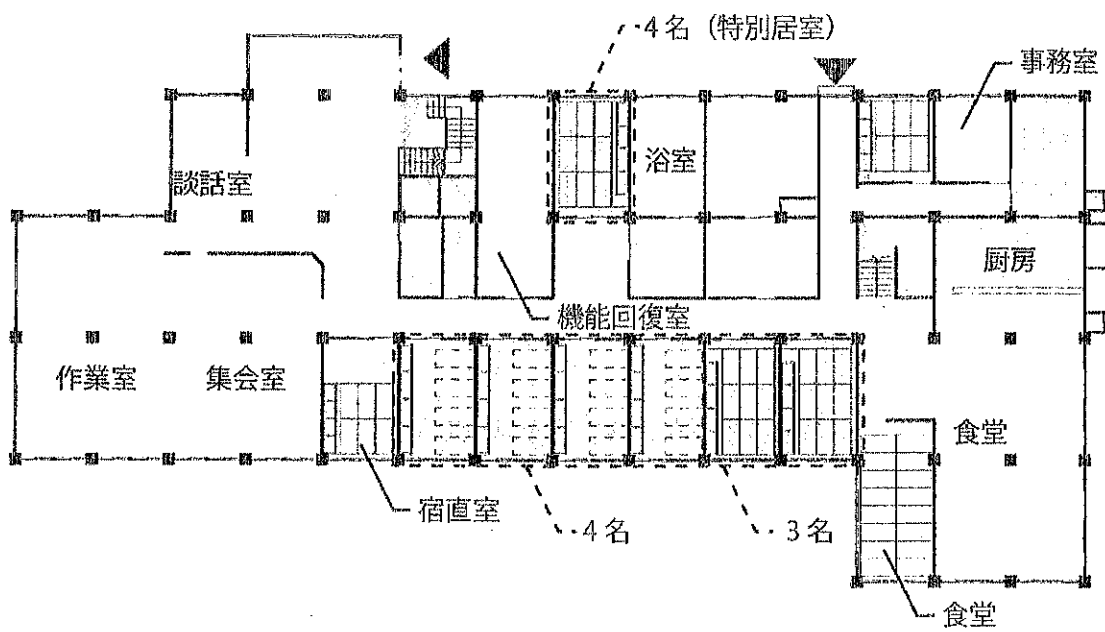
維持管理の空間

垂直動線の空間

[現行施設] 1981年竣工



2階平面図 (Scale: 1/400)



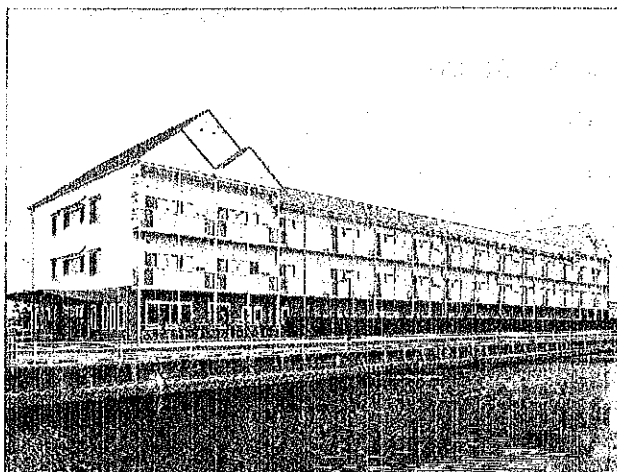
1階平面図 (Scale: 1/400)

中国地方 [OT]

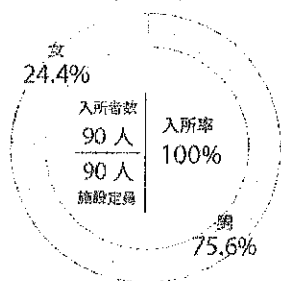
中国地方 [OU]

(〇 県内の救護施設6軒)

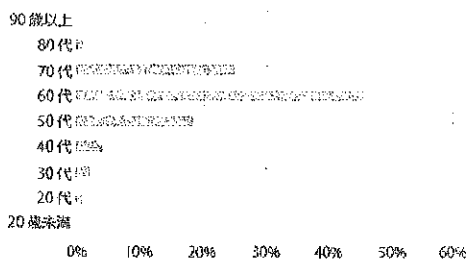
施設の基本情報
 施設設立年(救護)
 1976
 築年数(現存施設)
 5
 併設施設の有無
 有(障害者支援施設)
 障害種別
 A-3(精神障害型)
 施設形態
 a-2(単棟回廊型)



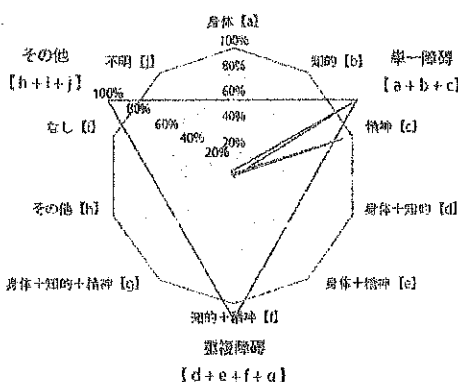
施設利用者の性別構成 (N=90)



施設利用者の年齢構成 (N=90)

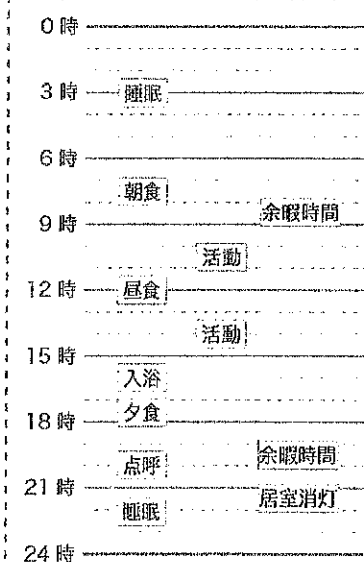


施設利用者の障害構成 (N=90)

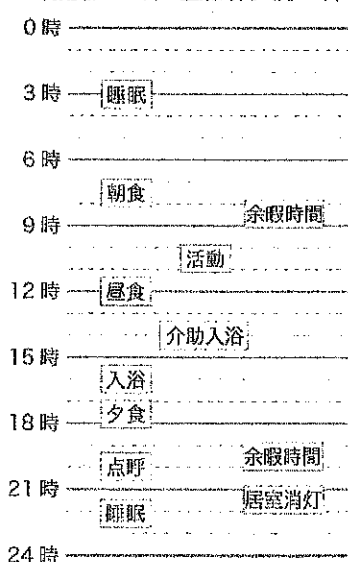


1日の生活時間(利用者)

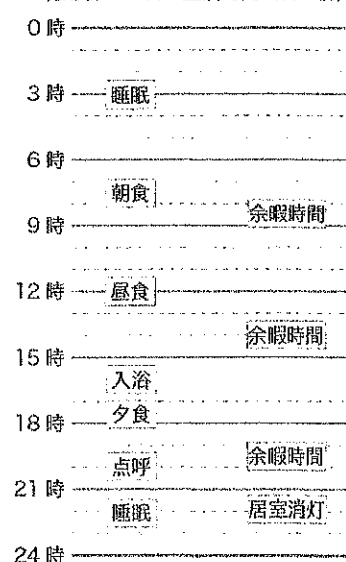
利用者の1日の生活時間(平日)



利用者の1日の生活時間(月・木)



利用者の1日の生活時間(日・祝)



中国地方 [OU]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和 50 年 6 月 (1975) [OU] 施設の設立が認可され翌年、現在地に救護施設として開設される。当初の定員は 60 名であったが、昭和 54 年 2 月 (1979) に増築工事が実施され現在の定員 90 名に変更されている。

②建物構成に関して

構造は鉄骨造であり、敷地面積 5066.67m²に対して、延床面積 3891.26m² (併設施設 884.46 m² 除く) であった。施設形態は単棟回廊型で 3 階建であり、1 階部分に居室を含む利用者の供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。2 階及び 3 階部分には居室を中心に職員に供用される空間が配置されている。なお、アプローチは 1 階に配置されている。

③利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性 75.6%、女性 24.4%であり、入所者数は定員 90 名に対して 90 名であった (アンケート回収時: 2016/11)。利用者の障害種別は A-3 で精神障害を中心に利用がなされている。2 階は男性のみ、1 階及び 3 階は男女混合フロアになっているが、原則同性介助を採用している。

④居室環境に関して

居室はすべて個室で居室面積は個室 11.34m² (94 室) であった。居室設備は空調設備・収納・寝具であり、寝具はいずれもベッドを採用している。

⑤公共空間に関して

居室は複廊下型が採用されており、中央にライトコートを設けることで採光を確保している。また、談話室のほか、廊下には椅子や机などが配置されている。食堂に関しては 1 階に配置されており、座席は一部指定されている。

⑥ヒアリング調査の抜粋

[OU] 施設の母体は隣接する K 病院である。1950 年代に設置された K 病院は精神科医療を進める上で、病院と社会をつなぐ中間施設として [OU] 施設が設置された。利用者の入所期間の長期化に伴い、65 歳以上の高齢者の割合も約半数近い。そのため、作業訓練は病院から退院した方の外勤作業の足掛かりとなるような内容から日常生活リズムを整えるような内容に変更されている。初期施設の建設当初は建設地が沿岸部であるため、地盤沈下などの被害が生じた。新施設建設にあたっては害鳥による被害を受けている。

[施設ゾーニング凡例]

利用者の居室空間

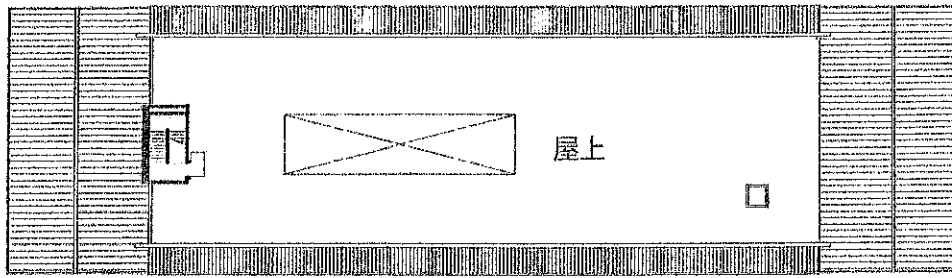
居室以外の共用空間

職員の空間

維持管理の空間

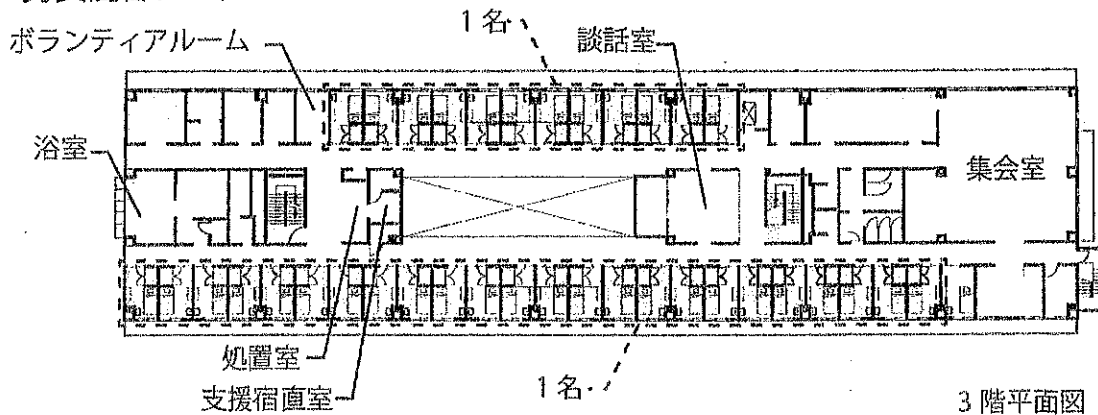
垂直動線の空間

[現行施設] 2012年竣工



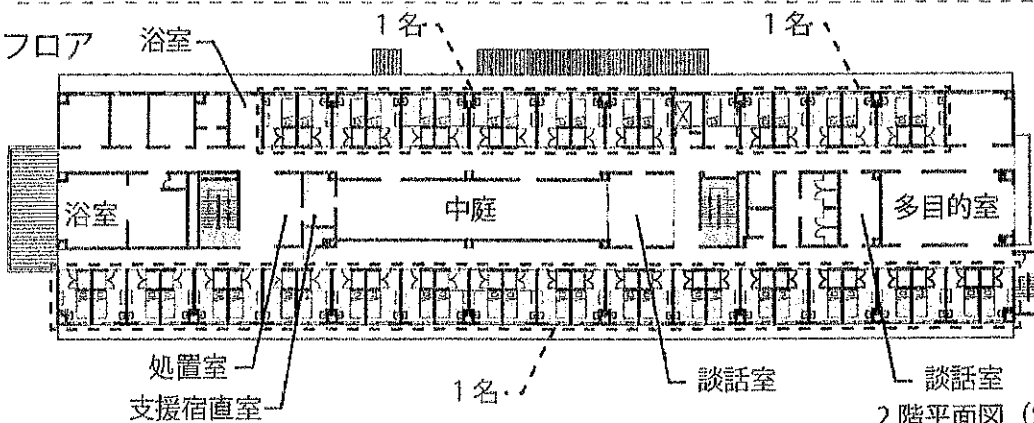
R階平面図 (Scale: 1/600)

男女混合フロア



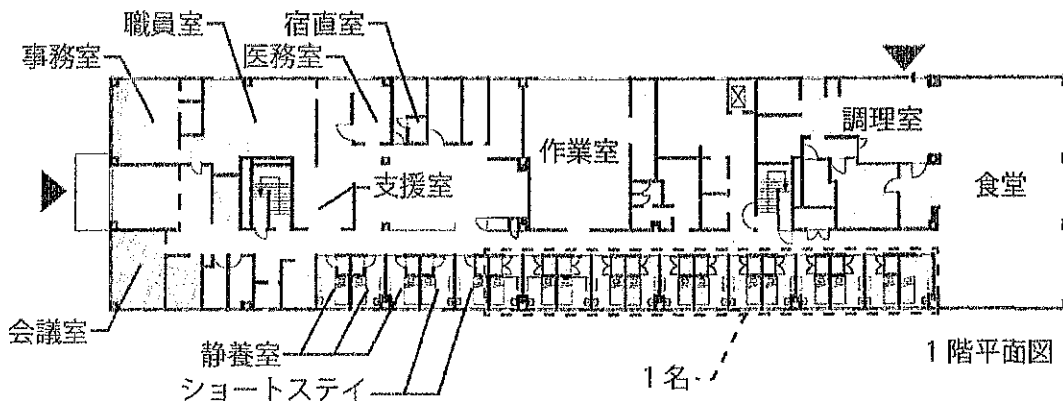
3階平面図 (Scale: 1/600)

男性フロア



2階平面図 (Scale: 1/600)

男女混合フロア



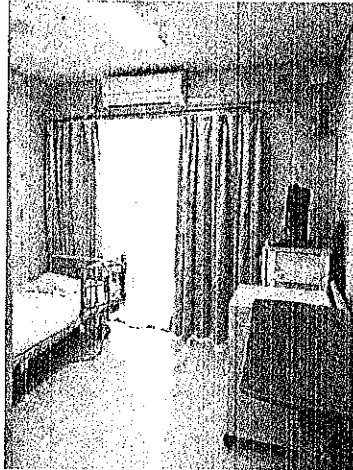
1階平面図 (Scale: 1/600)

中国地方 [OU]

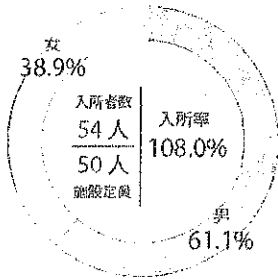
中国地方 [YS]

(Y 県内の救護施設 6 軒)

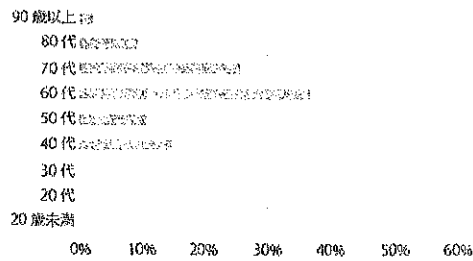
施設の基本情報
 施設設立年 (救護)
 1962
 築年数 (現存施設)
 6
 併設施設の有無
 無
 障害種別
 A-3 (精神障害型)
 施設形態
 a-1 (単棟独立型)



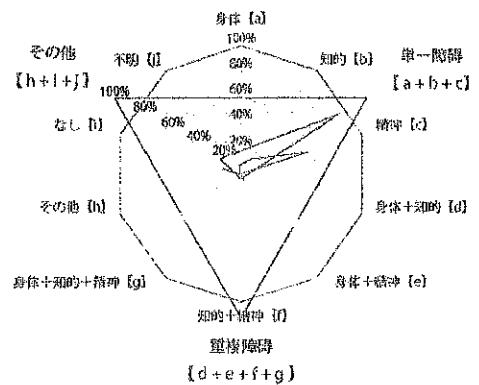
施設利用者の性別構成 (N=54)



施設利用者の年齢構成 (N=54)

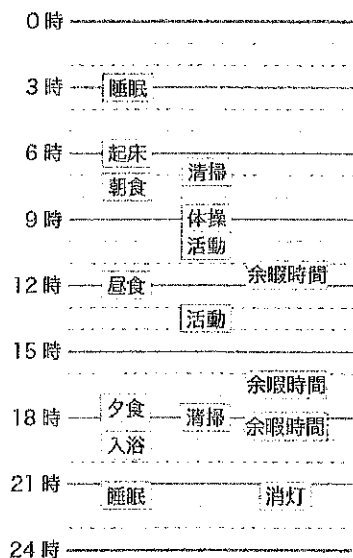


施設利用者の障害構成 (N=54)

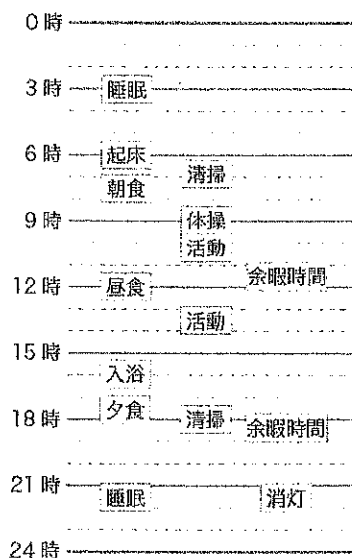


1日の生活時間 (利用者)

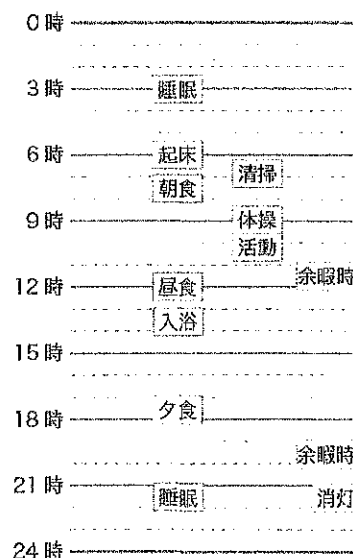
利用者の1日の生活時間 (屋外作業・一般浴)



利用者の1日の生活時間 (屋外作業・一般浴)



利用者の1日の生活時間 (屋内作業・介助浴)



中国地方 [YS]

- ①施設沿革 ②建物構成 ③利用者状況
④居室環境 ⑤公共空間 ⑥ヒアリング調査の抜粋

①施設沿革に関して

昭和 36 年 7 月 (1961) に国の承認を受け、翌年に T 地方救護所を開設。平成 15 年 4 月 (2003) に市町合併により S 地区福祉施設組合 S 荘に名称変更される。平成 23 年 (2011) に現行施設 [YS 施設] が開設される。

②建物構成に関して、

構造は鉄筋コンクリート構造であり、敷地面積 2242.13m² に対して、延床面積 1896.73m² であった。施設形態は分棟独立型で 3 階建であった。1 階部分に居室を除く利用者の供用される空間及び、職員に供用される空間、施設の維持管理に供用される空間が配置されている。

③居室環境に関して

居室は定員 2 名をベースに個室が 3 室のみ設置されており居室面積は、定員 2 名 15.7m² (26 室)、個室 8.6m² (3 室) であった。空調設備は各室ごとの管理であり、居室設備は空調設備・収納・寝具であった。定員 2 名の居室に関しては、カーテンレールによる間仕切りが設置されている。

④公共空間に関して

食堂の座席は固定制であった。各階に設置されたダイナーには、TV・書庫・椅子・テーブル・給湯設備が設置されていた。色彩計画としては、2 階のダイナーには赤色を基調とした配色がなされており、3 階のダイナーには青色を基調とした配色がなされている。

⑤利用者状況に関して

利用者の性別構成は、男性 61.1%、女性 38.9% であり、入所者数は定員 50 名に対して 54 名であった (アンケート回収時: 2016/11)。利用者の障害種別は A-3 で精神障害を中心に利用がなされている。低層階 [2 階] に重度な障害状況の利用者を配置しており、身体障害者便所を 2 箇所設置している。高層階 [3 階] に軽度な障害状況の利用者を配置している。各階中央には、介護職員室が設置されており、重度利用者を配置している。また、個室の関しては障害状況や生活能力問わず、集団生活における性格上の理由で利用される。

⑥ヒアリング調査の抜粋

ヒアリング調査では、Y 県内は人口当たりの施設数が充実しているが、需要は高い。平成 23 年の建て替えにより、平家建から 3 階建に変化したことで、利用者動線は短縮化されたが運動不足を生み出す要因となっている。

旧施設について

- ・現行設南側に存在
- ・延床積 995.0m²
- ・施設定員 50 名

[施設ゾーニング凡例]

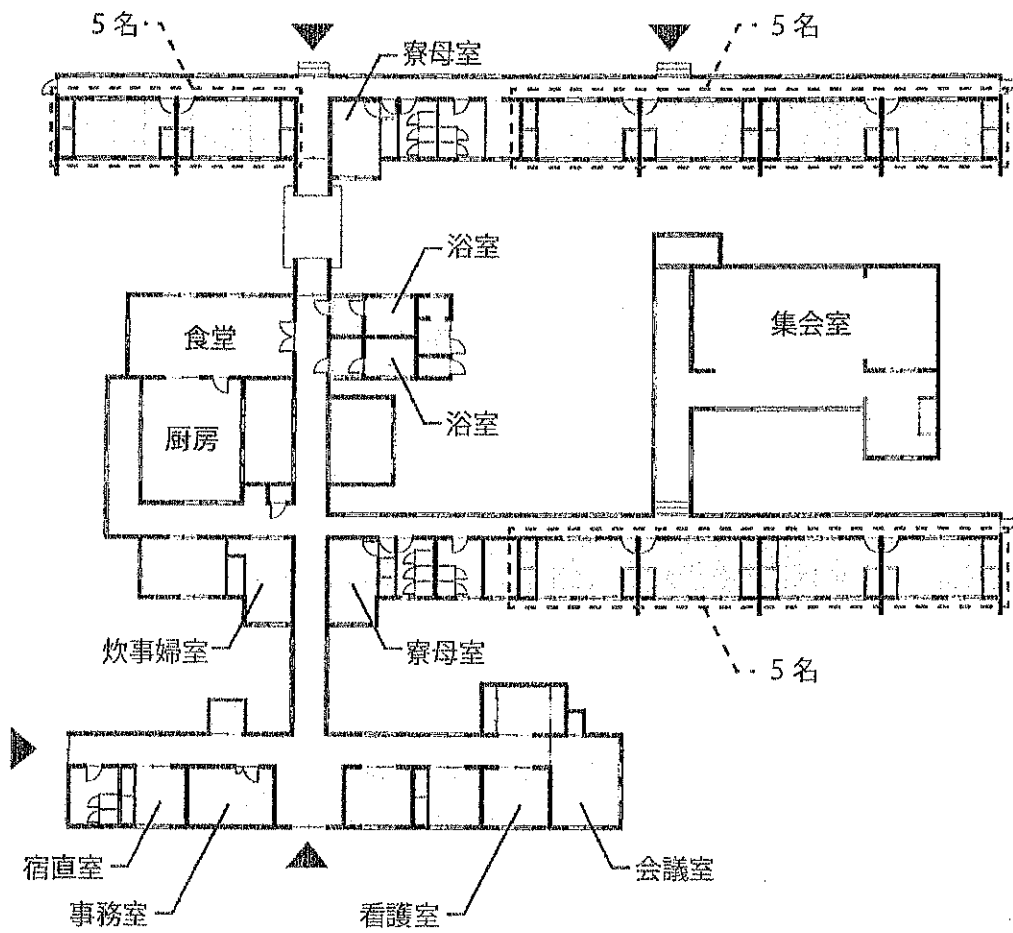
利用者の居室空間

居室以外の共用空間

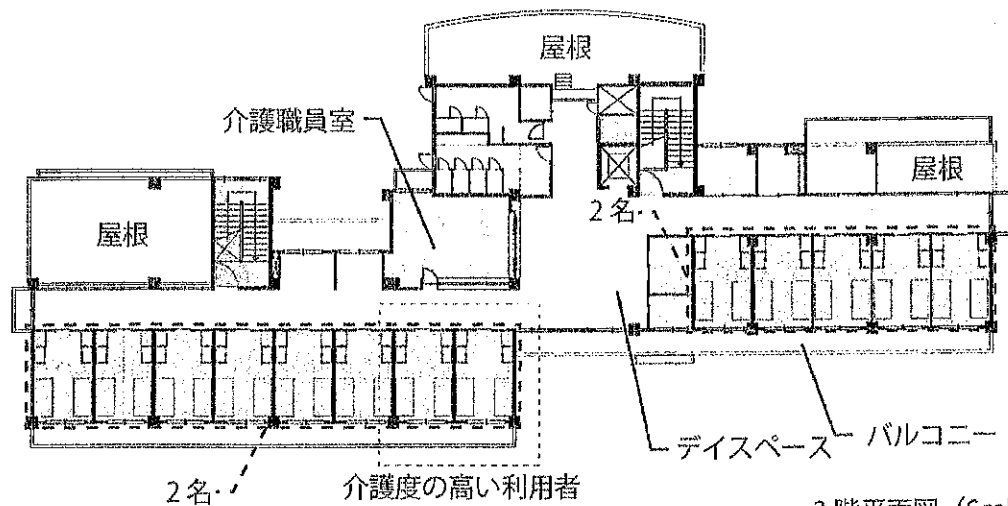
職員の空間

維持管理の空間

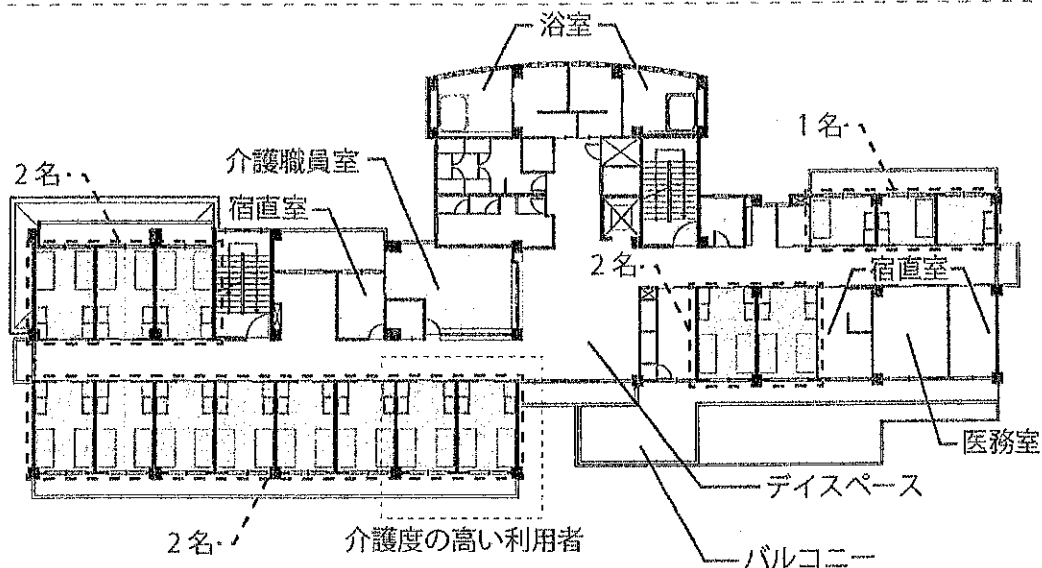
垂直動線の空間



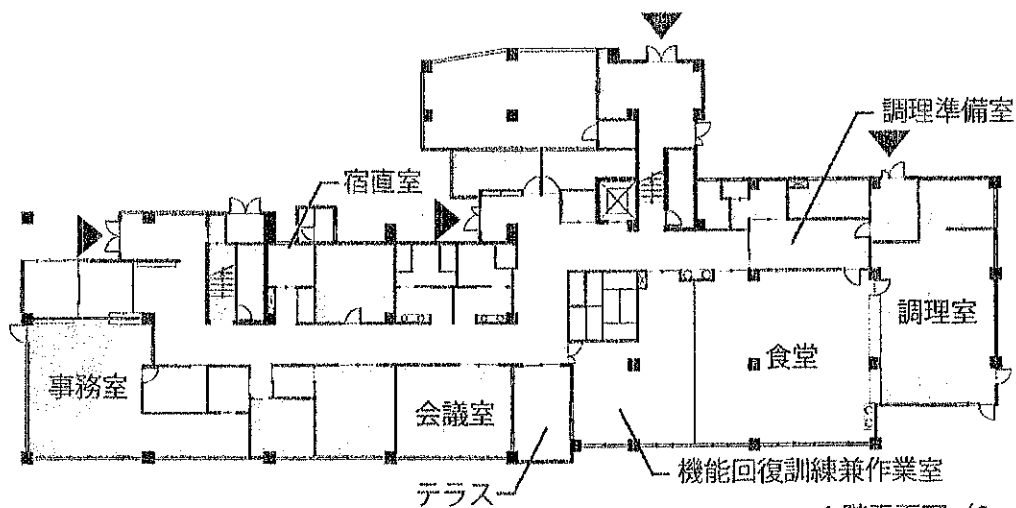
1階平面図 (Scale: 1/400)
中国地方 [YS]



3階平面図 (Scale : 1/400)



2階平面図 (Scale : 1/400)



1階平面図 (Scale : 1/400)

中国地方 [YS]

3-2 救護施設の建て替えに関する事例

ヒアリング調査を行った訪問施設 17 施設のうち、過去 10 年以内に建替え事業を実践している 5 施設（うち 2 施設は建設中）について、その施設特性を表 3-1 に示す。

施設運営に関しては、民設民営、公設公営、公設民営がそれぞれ存在しており、1 施設は精神科病院を併設している。建替え事業は、いずれの施設も概ね築 40 年前後で行われており、洋室且つベッド（一部和室）が採用されている。また、1 室当たりの居室定員は減少傾向であり、個室型多床室を除くといずれも居室定員は 2 名以下である。一方、統廃合の 1 施設を除く 4 施設は、同一敷地内或いは隣接した敷地に建設されている。そのため、個室や個室型多床室の導入に伴う居室面積の増大には、階数を積層することで対応している。従って、先のアンケートでは低層の施設（平屋建て又は 2 階建て）が約 6 割であったが、今後の建替えに伴い、施設の高層化が想定される。施設の高層化に際して、利用者の垂直移動が増加することから、地域社会との剥離や階層によるコミュニティの固定化、性別の偏りによる男女混合フロアへの配慮など、今まで以上に断面のゾーニングの重要性が増すことが想定される。また、従来、採光の確保や利用者の体力維持を果たしてきた外部空間の減少も問題とされており、建替え事業に際して、回廊型の採用や光庭、ヴォイドを設ける等、利用者の体力維持を促している。建替え時の共通の住要求としては、ヒアリング時に清潔/不潔区域に配慮した動線計画、一時入所や新規入所、感染症発生時に利用する特別室の設置、居室における各個人のプライベートな窓の設置、収納スペースの増設等が挙げられた。

表 3-1 建て替え施設の概要（過去 10 年以内）

名称	設置/運営	施設定員 (人)	築年数 新施設	築年数 旧施設	施設階数 (旧施設)	居室様式 (旧施設)	居室定員 新施設	居室定員 旧施設
AS	民設民営	120	建設中	45	2 (1)	洋室 (和室)	個室型4床室 (一部個室)	2名/5名/6名/8名
SN	公設民営	60	建設中	46	2 (1)	洋室/和室 (和室)	2名 (一部個室)	4名/5名/7名
TO	民設民営	200	9	39	5 (2)	洋室 (和室)	個室 (前室共有)	4名
OU	民設民営	90	5	33	3 (2)	洋室 (和室)	個室	1名/4名
YS	公設公営	50	6	50	3 (1)	洋室 (和室)	2名 (一部個室)	5名

救護施設の建て替え事例① [AS]

東海地方の AS 施設の建替え事例について、居室平面図及び、施設のブロックプランを図 3-4 に示す。居室に関して、1人当たりの居室面積は約 1.5 倍に増加しており、洋室且つベッドが採用されている。施設のブロックプランに関しては、片廊下型から回廊型に変更されており、利用者の生活動線及び、職員の介護動線が短縮されている。また、光庭や居室における各個人のプライベートな窓を設置することで、施設内部の採光や通風を確保している。

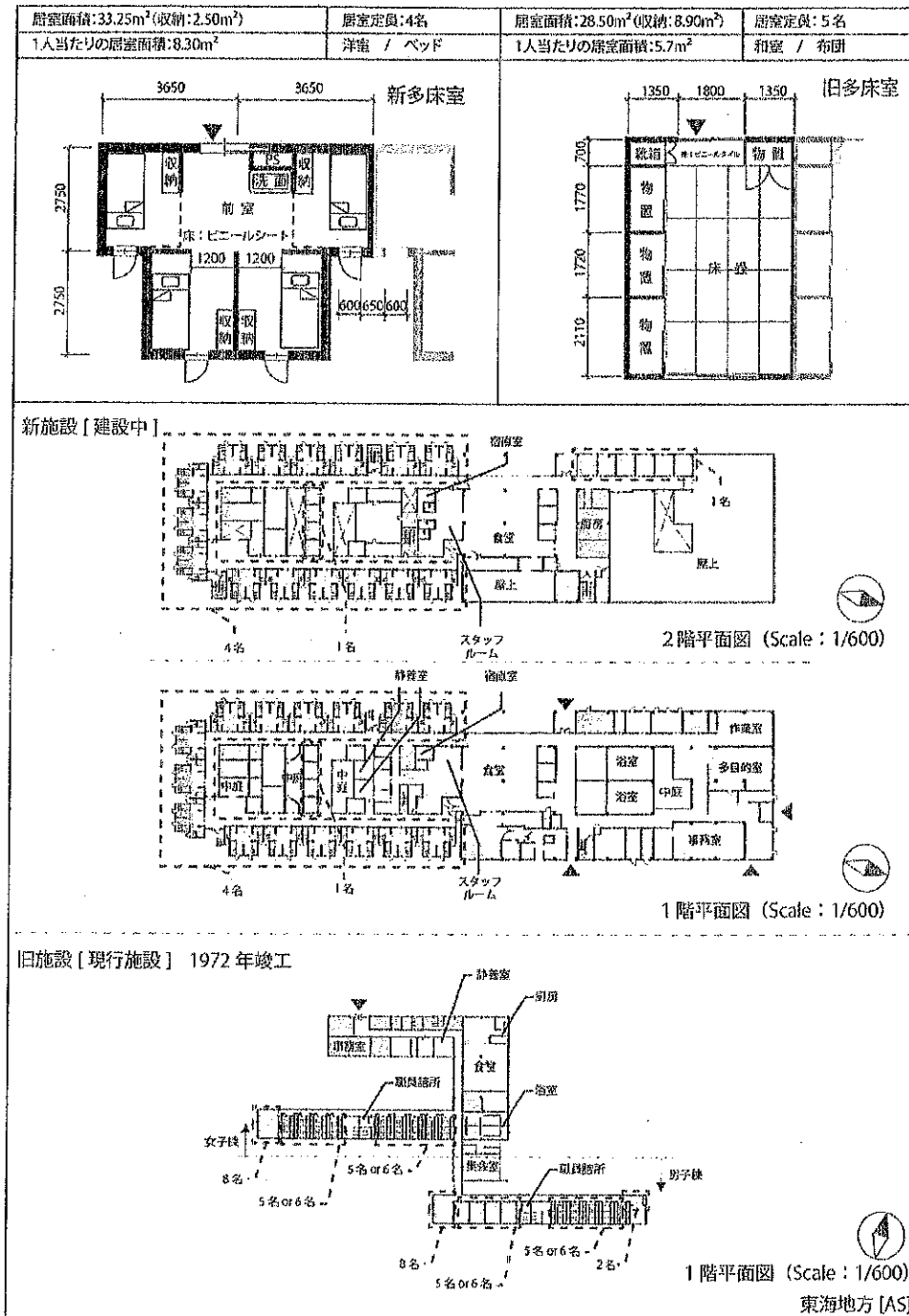


図 3-4 救護施設の建て替え事例① [AS]

救護施設の建て替え事例② [SN]

東海地方の SN 施設の建替え事例について、居室平面図及び、施設のブロックプランを図 3-5 に示す。SN 施設の建て替えにおいては、SN 施設(旧)と同一市内の救護施設(SI 施設)が統廃合される形で施設計画がなされているため、居室数が増加している。居室に関して、1人当たりの居室面積は約 1.4 倍に増加しており、洋室且つベッド(一部、和室)を採用している。居室配置は片廊下型から回廊型に変更されており、利用者の生活動線及び、職員の介護動線が短縮されている。また、光庭を設置することで採光を確保している。

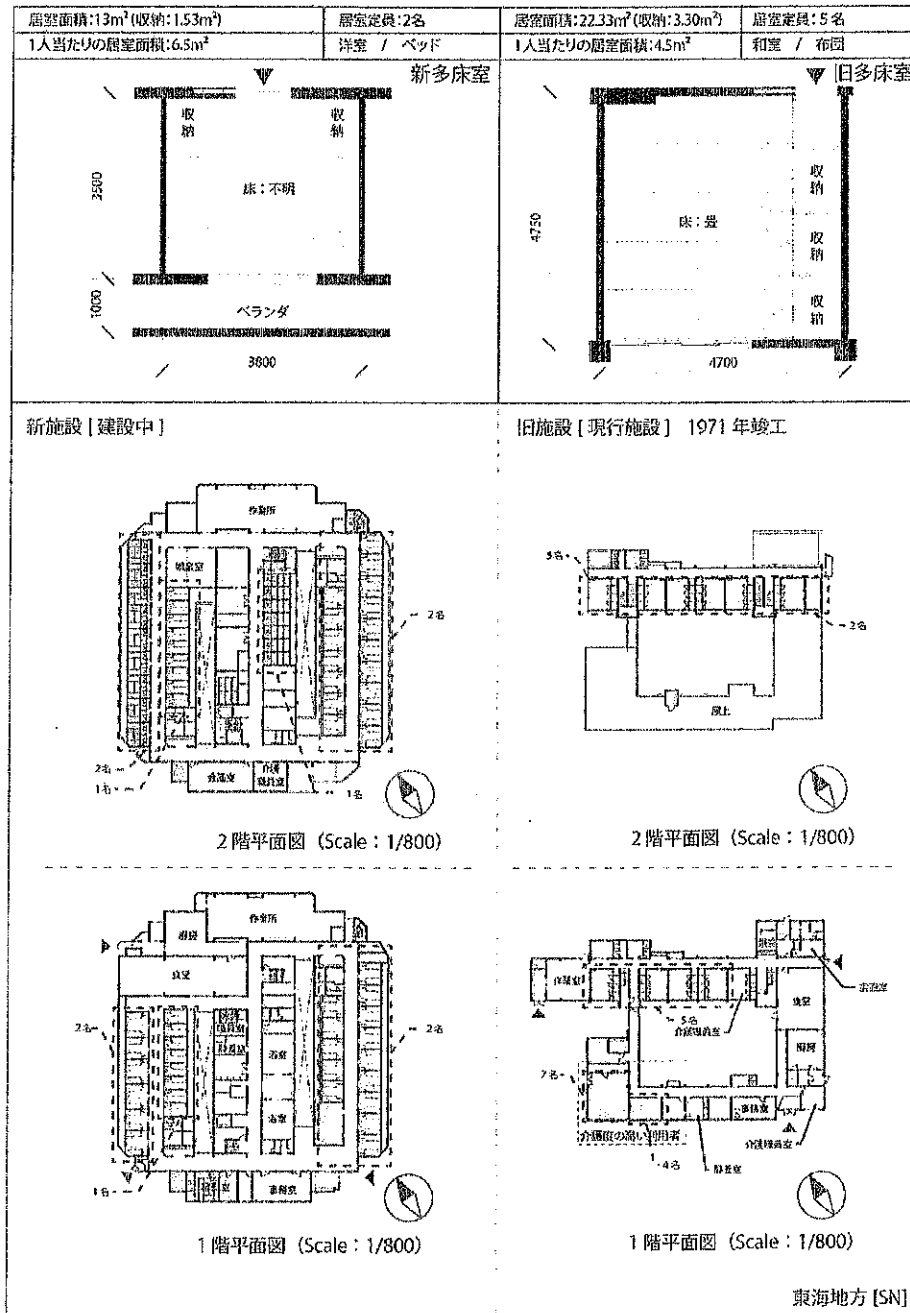
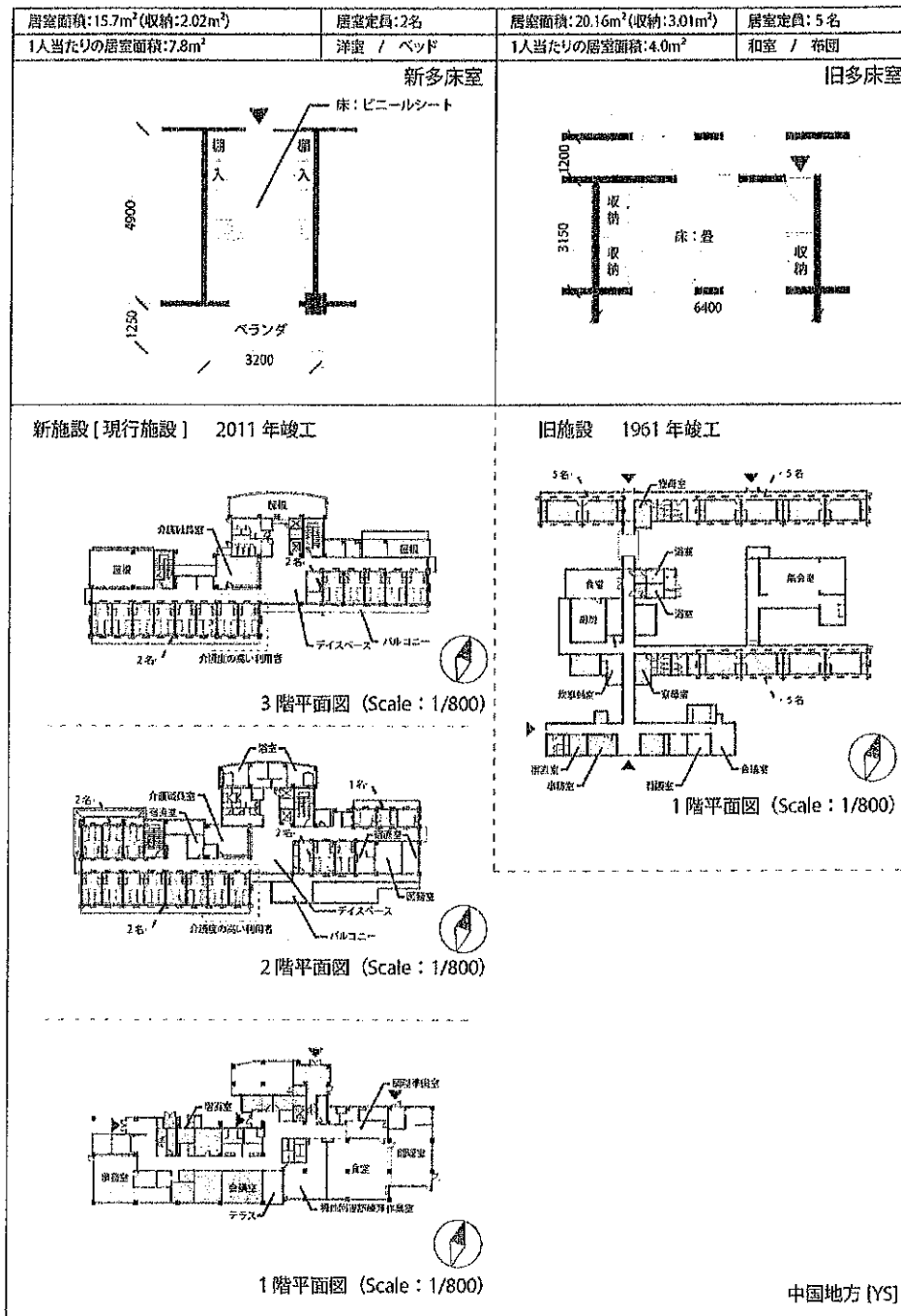


図 3-5 救護施設の建て替え事例② [SN]

救護施設の建て替え事例③ [YS]

中国地方のYS施設の建替え事例について、居室平面図及び、施設のブロックプランを図3-6に示す。YS施設の建て替えにおいて、居室に関しては1人当たりの居室面積は約2.0倍に増加しており、洋室且つベッド（一部、和室）を採用している。居室配置には片廊下型から複廊下型（2階のみ）に変更されている。各階に介護職員室を設置することで職員の介護動線が短縮されている。また、各階にダイナーを設けることで日常の居場所となっている。



中国地方 [YS]

図3-6 救護施設の建て替え事例③ [YS]

救護施設の建て替え事例④ [TO]、事例⑤ [OU]

近畿地方の TO 施設及び、中国地方の YS 施設の建替え事例について、居室平面図及び、施設のブロックプランを図 3-7 に示す。いずれの建て替えにおいても全室個室及び、洋室且つベッドが採用されている。一方で、OU 施設と比較して、TO 施設は各個室に前室を設けていることが特徴である。いずれの施設も従来の救護施設と比較するとフロアが積層している。そのため、いずれの施設においても浴室を各階に設置している。TO 施設に関しては、食堂を各階に複数箇所設けることでユニットケアを実施している。

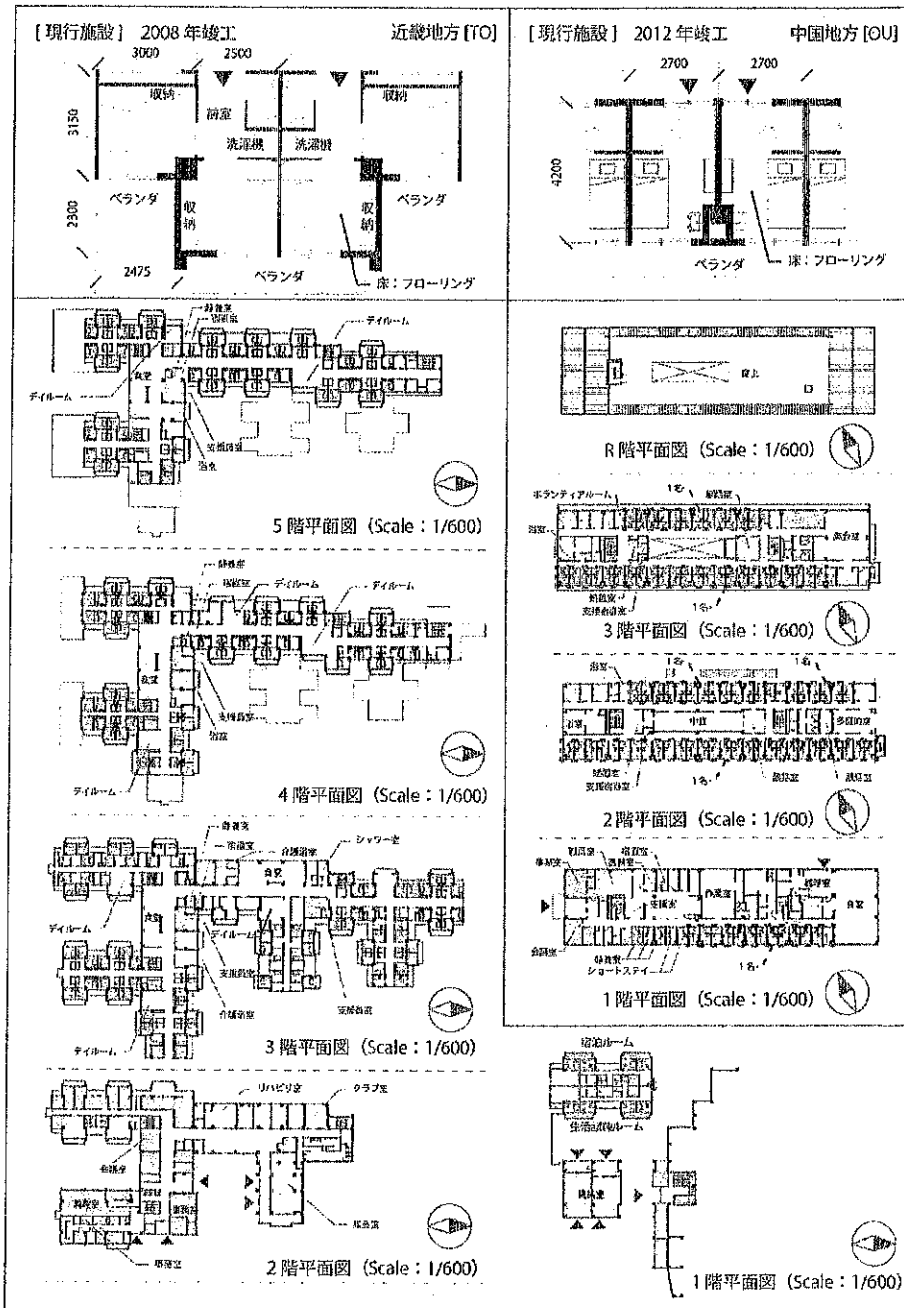


図 3-7 救護施設の事例④ [TO]、事例⑤ [OU]

3-3 救護施設利用者の生活時間について

利用者の生活時間に関して、①基本時間（①睡眠/②食事/③入浴）と②施設プログラム時間（④作業、活動/⑤掃除、整容、体操等/⑥クラブ活動/⑦リハビリ、個別支援活動）、③自由時間（⑧余暇/自由）の3項目8種類に分類した。①の基本時間は最低限の生活を行う上で必要な行為であるが、全救協においては、①の基本時間に加えて、救護施設で実施されるサービスとして〔日常生活支援/リハビリテーションプログラム/自己実現の支援/地域生活の支援〕を位置づけており、②施設プログラム時間として各施設で取り組まれている。

入浴日の生活時間を表3-2、入浴日以外の生活時間を表3-3、両者を併記した表3-4をそれぞれ以下に示す。表中のカッコ内の数字は、入浴の裏での余暇時間など重複する行為がある場合のカウントである。

①基本時間に関して

救護施設における基本時間は、入浴日において平均15時間であり、そのうち利用者の睡眠時間は平均9時間であった（①）。また、食事時間は毎食30分～1時間設けられており、利用者の生活能力や食堂が1か所しかなく、出入りに時間が要する施設は、その特性に応じて時間差で食事を行っている（②）。入浴時間は、1時間未満～6時間以上まで幅広く、介助浴を採用している施設では長時間の入浴となっており、概ね週2回～4回の入浴日を設けている（③）。

②施設プログラム時間に関して

救護施設における施設プログラム時間は、入浴日においては平均5時間半であった。作業活動時間は、入浴日においては平均1時間半程度設けられており、企業からの箱折りや部品分別などの軽作業の他、地域のフリーマーケット等で販売するハンドメイドの商品の制作を行っている（④）。利用者における掃除や整容、体操や医務処置、施設行事などは平均3時間程度設けられている。掃除や整容、体操などの日常的に行われる活動と医務処置や施設行事など非日常的に行われる活動に分けられる（⑤）。同様に一部施設においては、クラブ活動（趣味/娯楽）が行われているが、近年においては利用者の生活能力の低下から少人数による活動が中心となっている（⑥）。加えて、近年の障害状況の多様化や高齢化からリハビリや個別支援活動を実施する施設も少数であるが存在している（⑦）。なお、リハビリや個別支援活動に関しては、時間割に明記の無い施設においても日常的に実践している施設もある。

③自由時間に関して

自由時間は、入浴日においては平均6時間である。従来、作業時間に充てられていた時間を利用者の高齢化や障害状況の多様化に伴う作業内容の制限から作業時間が余暇及び、自由に変更されている。入浴日以外の生活時間は、表3-3のように入浴時間を余暇時間または、作業時間に充てられている。

[生活時間凡例]

①基本時間

- ①☉：睡眠（消灯）
- ②☉：食事
- ③☉：入浴

②施設プログラム時間

- ④☉：作業、活動
- ⑤☉：掃除、整容、体操、医務、朝礼、礼拝、水分補給、洗濯、行事
- ⑥☉：クラブ活動
- ⑦☉：リハビリ、個別支援活動

③自由時間

- ⑧☉：余暇、自由

このように、利用者の生活時間は①基本時間、②施設プログラム時間、③自由時間ともに、施設ごと利用者の特性や施設環境に応じて差異が生じている。その要因を探るべく、各項目における標準偏差($\sigma 1$)を算出した。その結果、入浴日及び非入浴日ともに、①睡眠、②食事、⑥クラブ活動、⑦リハビリ・個別支援活動と比較して、③入浴(入浴日のみ)、④作業・訓練、⑤掃除、整容、体操等、⑧余暇/自由において、施設ごと利用者の生活時間にバラつきがみられた。一方で、①～③の平均偏差($\sigma 2$)に関して、非入浴日と比較すると、入浴日においても施設ごと利用者の生活時間にバラつきがみられた。

①基本時間及び、③自由時間に関しては、いずれの施設においても時間差は生じているものの、最低限の生活を行う上で設けられている。その一方で、②施設プログラム時間においては、④～⑦のいずれの項目においても明確な時間を設けていない施設がみられた。それは、近年における利用者の障害状況の多様化や高齢化に伴う生活能力の低下など、今まで以上に幅広い利用者が施設を利用している観点から、利用者の生活能力に応じて、少人数での作業やクラブ活動、リハビリを行う施設がヒアリング調査より確認されたことに影響していると考えられる。

すなわち、各施設の生活時間の差異は、利用者の年齢層や障害状況の多様化に起因しており、高齢化や重複障害を有する利用者の増加の結果、作業・訓練時間の削減と余暇・自由時間の増加をもたらしていることが確認された。

表 3-2 利用者の生活時間 [入浴有] (min)

	YB	TK	TA	TH	SZ	SN	NU	NK	AS	AA	SH	TO	OF	OH	OT	OU	YS	平均	Σ	$\sigma 1$	$\sigma 2$
①			800	510	540		570		540	540	480	540	480		540	570	540	538	874	34.9	30.8
			180	180	195		180		180	180	180	180	180		180	180	180	181		4.3	
			240 (120)	240	240 (75)		75		120	120 (60)	225 (60)	135	180		150	187.5	240 (97.5)	155		89.1	
②			350	90	270		60		210	150	0	135	0		105	187.5	120	45	306	37.3	19.0
			150	300	120		255		255	135	270	255	75		150	0	180	179		90.6	
			0	0	0		0		45	180	105	0	0		0	0	0	28		57.5	
③			0	0	0		120		0	0	0	0	0		0	0	0	10	360	34.6	159.8
			90	150	0		180		165	165	330	405		345	315	165	380	360		159.8	
			(390)	(195)	(210)				(270)	(300)	(360)	(472.5)	540		(397.5)	(375)	(262.5)				

表 3-3 利用者の生活時間 [入浴無] (min)

	YB	TK	TA	TH	SZ	SN	NU	NK	AS	AA	SH	TO	OF	OH	OT	OU	YS	平均	Σ	$\sigma 1$	$\sigma 2$
①		550	540		540	540	570	540	540			340	480		540			549	737	44.8	17.1
		210	180		195	210	180	180	180			180	180		180			188		12.7	
		0	0		0	0	0	0	0			0	0		0			0		0.0	
②		420	240		270	225	180	0	0			135	90		60			38	182	32.4	23.0
		(210)	(150)		(135)	(180)	(60)					(37.5)						25		59.2	
		90	60		120	165	255	90	180			45	60		120			119		65.4	
③		0	0		0	0	75	0	180			0	0		0			25	578	59.2	299.3
		0	0		0	0	0	0	0			0	0		0			0		0.0	
		120	420		240	270	180	600	540			540	630		540			578		299.3	

[生活時間凡例]

①基本時間

- ①☾ : 睡眠 (消灯)
- ②☺ : 食事
- ③☁ : 入浴
- ⑥☁ : クラブ活動

③自由時間

- ⑧☁ : 余暇、自由

②施設プログラム時間

- ④☉ : 作業、活動
- ⑤☉ : 掃除、整容、体操、医務、朝礼、礼拝、水分補給、洗濯、行事
- ⑦☉ : リハビリ、個別支援活動

表 3-4 利用者の生活時間

時刻	YB	TK	TA	TH	SZ	SH	NU	NK	AS	AA	SH	TO	OF	OH	OT	OU	YS
0:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
0:15																	
0:30																	
0:45																	
1:00																	
1:15																	
1:30																	
1:45																	
2:00																	
2:15																	
2:30																	
2:45																	
3:00																	
3:15																	
3:30																	
3:45																	
4:00																	
4:15																	
4:30																	
4:45																	
5:00																	
5:15																	
5:30																	
5:45																	
6:00																	
6:15																	
6:30																	
6:45																	
7:00																	
7:15																	
7:30																	
7:45																	
8:00																	
8:15																	
8:30																	
8:45																	
9:00																	
9:15																	
9:30																	
9:45																	
10:00																	
10:15																	
10:30																	
10:45																	
11:00																	
11:15																	
11:30																	
11:45																	
12:00																	
12:15																	
12:30																	
12:45																	
13:00																	
13:15																	
13:30																	
13:45																	
14:00																	
14:15																	
14:30																	
14:45																	
15:00																	
15:15																	
15:30																	
15:45																	
16:00																	
16:15																	
16:30																	
16:45																	
17:00																	
17:15																	
17:30																	
17:45																	
18:00																	
18:15																	
18:30																	
18:45																	
19:00																	
19:15																	
19:30																	
19:45																	
20:00																	
20:15																	
20:30																	
20:45																	
21:00																	
21:15																	
21:30																	
21:45																	
22:00																	
22:15																	
22:30																	
22:45																	
23:00																	
23:15																	
23:30																	
23:45																	

4-4 混合処遇と生活環境のゾーニングに対する試論

救護施設は多様な障害者を入所させている施設であるが、それらの多様な利用者をどのような観点から分けて空間配置を行っているのかについては、整理されていない。ヒアリングおよび訪問調査にて、明らかにできた施設 17 施設の概要を表 3-5 にまとめた。

これをみると、男女の居室配置を明確に行っている施設が 7 施設あることがわかる。なお、同一階となっている YB, TH, NK の施設においても同一階の中でゾーニングが明確分けられており、性別が混同しないように配慮されていた。一般病院や特別養護老人ホームなどでは、男女による居室配置は行われていないが、一部の精神病院においては性差による意識的なゾーニングが行われており、精神障害者中心の救護施設においても、精神病院の居室配置の流れが影響しているものと考えられた。

その他、ゾーニングで見られた点は、病院や福祉施設と共通して、見守り度の高い人が介護職員室付近に配置されるほか、避難も含め低層配置される場合が多くみられた。SN では、2 名室が基本となるが、自立度の高い人と自立度の低い人で組み合わせを行い、利用者間での助け合い・支えあいを期待する工夫がみられた。その一方で、OF は自立度が高く地域で就労を行っている人を 1 階に配置したり、OH は中の動線での避難が難しいため、居室窓からの避難を最初から想定し、火事の際の火の回りが遅い高層に介護度の高い利用者を配置したりするなどの特徴がみられた。

他、食堂の座席の選択制が何らかのゾーニングにも影響していると考えられたが、高齢化が進んだ救護施設においては、刻み食や減塩食などの利用者に応じた食事バランスが整えられており、それによって座席が固定化する傾向が見られ、特にゾーニングには関係していなかった。

表 3-5 ゾーニングの区分

	設置 運営	築 年数	階数	障 碍 種 別	全室個室 か個室型 多床室か	男女での ゾーニング		見守り度高い人の ゾーニング		食堂の 座席
						同一階	階や棟が 違う	介護職員 室付近	低層配置	
YB	民設民営	14	1	混合		●		●	平屋	固定
TK	民設民営	35	2	混合			●	●	●	固定
TA	民設民営	37	4	精神			●	●	●	固定
TH	民設民営	22	3	身体		●		●		固定
SZ	民設民営	24	3	精神		-	-	-	-	固定
SN	公設民営	46	2	精神		-	-	●	●	固定
NU	公設公営	45	2	混合			●	●		固定
NK	公設公営	35	2	混合		●		●	居室部は単層	固定
AS	民設民営	45	2	混合			●	●	居室部は単層	固定
AA	民設民営	29	3	精神			●	●		固定
SH	民設民営	47	1	混合			●	●	●	一部固定
TO	民設民営	9	5	精神	●		●		●	固定
OF	民設民営	13	3	精神	●	●		●	見守り2階、地 域に出る人1階	固定
OH	民設民営	50	5	混合		男性のみ		●	高層配置	自由
OT	民設民営	36	2	混合		女性のみ		●		固定
OU	民設民営	5	3	精神	●		一部男性の みのフロア	●	●	一部固定
YS	公設公営	6	3	精神			●	●	●	固定

4章 終章

ここでは、各章でわかったことを以下にまとめる。

4-1 第2章で得られた知見

第2章においては、救護施設に関する概括的なアンケートを実施することで、①救護施設における利用者特性、②救護施設における居室環境、③救護施設における施設全体計画に関して、それぞれ明らかにした。

①救護施設における利用者特性

利用者の性別構成は、男性が57.1%とやや男性に偏りが見られた。また、平均入所率は96.9%で過去10年の入所者数と退所者数の比率も同程度であることから、救護施設の需要は依然として高いものであると推察される。なお、利用者の障害状況に関しては、かつて緊急救護施設（第1章）として開設された救護施設も存在することから、精神障害を有する利用者（他の障害との重複障害を含む）が54.9%と全体の過半数を占めている。

このような救護施設の共通性や普遍性に対して、把握できた範囲で全183施設のうち、6施設で男性のみ、1施設で女性のみを対象とする施設がみられた他、視覚障害を主対象とする救護施設もみられるなど、多様性や個別性がうかがえた。

②救護施設における居室環境

救護施設における居室環境に関しては、設置基準である床面積 3.3m^2 以上（収納設備除く/平均 7.6m^2 ）、居室定員は原則4名以下を概ね満たしている。一方で、居室面積に関して、全居室の一人あたりの居室面積 7.6m^2 に対して、定員1名においては居室面積 11.5m^2 であるが、定員5名は 5.1m^2 と2倍以上の面積差がみられたと同時に、居室定員に関しても、定員8名の居室が存在する等、施設間の格差がみられた。同様に居室様式と寝具様式に関しても、洋室且つベッドが約6割と過半数を占めるものの、和室且つ布団の居室も約4割の施設でみられた。

③救護施設における施設全体計画

救護施設における施設全体計画に関しては、施設規模として施設定員51名～100名と定める施設が最も多く、施設階数は平屋建てや2階建てなどの低層施設が過半数を占めている。また、約6割の施設において、救護施設の他に医療施設や障害者支援施設の設置がなされており、それらの施設では、地域社会との中間的位置付けとしての役割を救護施設や併設施設が担っている。

このような救護施設の共通性や普遍性に対して、施設定員30名の小規模施設から240名の大規模施設まで様々な規模の施設が存在する他、食堂の設置箇所や重度棟や看取りの有無など多様性や個別性がうかがえた。

4-2 第3章で得られた知見

第4章においては、第3章で得られた救護施設に関する概括的な知見をもとに各特性を網羅的に17施設の見学調査の結果を取りまとめている。見学調査においては、施設ごとに固有の特性を把握すると同時に、利用者の特性や生活時間、施設のプロックプランについて並列的に整理した上で、①過去10年以内に改築又は移築が行われた5事例の特性、②救護施設における利用者の生活時間について明らかにした。

①過去10年以内に改築又は移築が行われた5事例の特性

建て替え事業に関しては、いずれの施設も築40年前後で実施されており、居室様式は洋室且つベッド（一部、和室）を採用しており、居室定員に関しても減少傾向にある。一方で、一室あたりの居室面積は約1.5倍～約2.0倍に増加していることから、施設全体の大規模化や施設階数の積層化がみられた。今後、施設の高層化に際して、利用者の垂直移動が増加することで、地域社会との剥離や階層によるコミュニティの固定化、性別の偏りによる男女混合フロアへの配慮など、今まで以上に断面のゾーニングの重要性が増すことが想定される。

②救護施設における利用者の特性の生活時間

救護施設における利用者の生活時間について、①基本時間（①睡眠/②食事/③入浴）と②施設プログラム時間（④作業、活動/⑤掃除、整容、体操等/⑥クラブ活動/⑦リハビリ、個別支援活動）、③自由時間（⑧余暇/自由）の3項目8種類をそれぞれ、入浴日と非入浴日において分類した。入浴日における、利用者の生活時間の平均値は、①基本時間 約15時間、②施設プログラム時間 約5時間半、③自由時間 約4時間であった。そのうち、①基本時間及び、③自由時間に関しては、いずれの施設においても時間差は生じているものの、最低限の生活を行う上で設けられている。一方、②施設プログラム時間においては、明確な時間を設けていない施設がみられた。特に、③入浴（入浴日のみ）、④作業・訓練、⑤掃除、整容、体操等、⑧余暇/自由の項目が、施設ごと利用者の生活時間のバラつきが大きく、それらは、利用者の年齢層や障害状況の多様化に起因しており、高齢化や重複障害を有する利用者の増加の結果、作業・訓練時間の削減と余暇・自由時間の増加をもたらしていることが確認された。

③混合処遇と生活環境のゾーニングに対する試論

様々な人を受け入れている救護施設におけるゾーニングの区分点について考察を行った。殆どの施設で実践されているのは男女におけるゾーニングと見守り度の高い人を職員室付近に配置することであった。男女のゾーニングに関しては、一般病院や福祉施設では積極的に行われていないものであり、一部の精神病院の性質を踏襲するものと判断できた。これは救護施設の歴史でも触れたが、同施設の成り立ちに精神障害者が大きく関係している（1958年の緊急救護施設としての位置づけ）ことから、これらの特徴がゾーニングそのものにも受け継がれたと考えられる。その他、同室者介助や地域で就労している人が1階に配置など、施設固有の特徴的な居室配置が見られたものの、救護施設としての特徴はみられなかった。

4-3 総括

本研究は、現存する救護施設の建築計画を創設時期や築年数等の時間軸、利用者の障害状況や生活環境等の環境軸、施設運営や整備等の運営軸から整理することを目的とし、今後の施設計画に寄与する成果を得ようとするものである。本研究で得られた成果は以下の通りである。

①施設利用者は、60歳以上の利用者が7割を占めており、単一障害62.2%、重複障害が20.2%であった。また、平均入所率は96.9%で過去10年の入所者数と退所者数の比率も同程度であることから、救護施設の需要は依然として高いものであると推察される。

②利用者の生活時間を食事・睡眠等の基本時間と作業やリハビリ等の施設プログラム時間、自由時間に分類した結果、利用者の障害状況の多様化や高齢化に伴う生活能力の低下により施設プログラム時間が無い施設がみられた。同時間が無い施設では自由時間が増加していることから、生活時間の差異は、利用者の年齢層や障害状況の多様化に起因していることが明らかとなった。

③利用者の生活環境に関しては、施設規模として施設定員 51 名～100 名とする施設が最も多く、施設階数は平屋建てや 2 階建て等の低層施設が過半数を占めている。居室に関しては、一人あたりの平均居室面積 7.6m²で、洋室且つベッドが約 6 割と過半数を占めるものの、和室且つ布団の居室も約 4 割の施設で採用されており、施設間の住環境の格差がみられた。

④建て替え事業に関しては、いずれの施設も築 40 年前後で実施されており、居室定員に関しても減少傾向にある。同時に建築としては、階層が積層化する傾向があり、利用者の垂直移動が増加することで、地域社会との剥離や階層によるコミュニティの固定化、性別の偏りによる男女混合フロアへの配慮など、今まで以上に断面ゾーニングの重要性が増すことが予測された。

⑤様々な人を受け入れている救護施設におけるゾーニングの区分点については、殆どの施設で実践されているのは男女におけるゾーニングと見守り度の高い人を職員室付近に配置することであった。男女のゾーニングに関しては、一般病院や福祉施設では積極的に行われていないものであり、一部の精神病院の性質を踏襲するものと判断できた。その他、同室者介助や地域で就労している人が 1 階に配置など、施設固有の特徴的な居室配置が見られたものの、救護施設としての特徴はみられなかった。

以上のように、本研究では、救護施設における共通性や普遍性を利用者特性と施設環境などから整理してきた。今後、救護施設はより高齢者施設の特徴を有しながら、社会的な受け皿としての機能が求められていくものと考えられる。救護施設においては、現在多様な人々を同一空間で受け入れており、個々に合わせた処遇の実現を目指している。一方で、高齢者は高齢者施設、障害者は障害者施設などの福祉の細分化と専門性が進んでいるという現実がある。ケアの面では、多少専門性が問われる部分もあると思われるが、そのように同じ特性を持つ人を集めることが社会として適切であるのかについては、判断が難しい。今後、より高齢化が進み、高齢者の受け皿が限られていくとするならば、現在の身体障害者療護施設や特別養護老人ホームなどが合体し、老いや障害の持つ人が共に暮らせるように、受け皿を拡大する必要性もあるのではないか。救護施設の現状は、それらが一対になっても施設として機能し、利用者にとって適切なサービスを提供できることを示している。

救護施設における施設調査のお願い

～調査協力のお願い～

はじめまして、私は、豊田工業高等専門学校 建設工学専攻 に在籍している 山本 と申します。所属する福祉系研究室では、医療・福祉施設を専門に勉強・研究をしております。現在、本校の卒業研究として、現在、需要拡大の一方で、多くの諸問題に直面している救護施設を対象として、研究を進めております。

本研究では、救護施設の設立から現在に至るまで、どのような役割と機能を果たしてきたかを明らかにすることで、救護施設の施設計画から今後の在り方を究明することを目的としています。今回の調査等を参考にしながら最終的な成果として、既往研究の乏しい建築計画分野の側面から、今後の救護施設の充実・発展へ寄与する研究となるように努めたいと考えております。

ご多忙と存じますが、ご回答を寄せていただきますよう宜しくお願い申し上げます。

< 調査用紙の記入に関して >

- ①: 本調査は、生活保護法第 38 条に規定する保護施設を対象としております。
- ②: 調査用紙の記入につきましては、事業主又は、施設長 様にご記入ください。
- ③: 調査用紙は、A3 見開き 1 枚となります。
※別途指定の無い場合、平成 28 年度 11 月現在の状況をご記入ください。
※回答項目の一部には、「事業報告概要書」に含まれる内容がございます。
その場合は、「事業報告概要書」を同封して頂き、「別紙記載」とご記入してください。
- ④: 写真データは、別紙を参照に【kyugo.research@gmail.com】までご送信ください。
- ⑤: ご回答終了後、お手数ですが回答欄に記入漏れがないか、もう一度ご確認の上、同封の返信用封筒にて調査用紙をご返送ください。

< プライバシーポリシーについて >

ご提供いただいた情報は厳重に管理し、本研究の目的以外に使用することはありません。調査用紙の記入・投函を以て、当研究への同意が得られたと判断させていただきます。

< 調査用紙の回収について >

お忙しいところ恐縮ですが、記入済みの調査用紙は、同封いたしました返信用封筒にて、誠に勝手ながら平成 28 年 12 月 22 日迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

< ご質問・ご意見等のお問い合わせ・連絡先 >

豊田工業高等専門学校 建設工学専攻科 1 年 山本 雄一 (亀屋 恵三子 研究室)
住所 : 〒471-8525 愛知県豊田市栄生町 2-1 豊田高専建築学科
E-Mail : kyugo.research@gmail.com TEL&FAX : 0565-36-5897

※本調査につきまして、ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

1. 貴施設の基礎データについてお尋ねします。

貴施設の住所：	貴施設の沿革をご記入ください。(移管・移転)
貴施設の設立年度： 年 月	
運営主体(法人名)：	
設置主体(法人名)：	

2. 貴施設に在籍されている職員数についてご記入ください。

事務員	人	看護職員	人	栄養士	人	介助士	人	施設管理者	人
指導員	人	看護師	人	調理師	人	医師	人	その他職員	人

3. 貴施設に入所されている利用者についてご記入ください。

問1. 利用者の入所者数と男女比についてご記入ください。

入所者定員	人	現在の入所者数：【男性】	人	【女性】	人	【合計】	人
-------	---	--------------	---	------	---	------	---

問2. 利用者の年齢層についてご記入ください。

未成年	人	30代	人	50代	人	70代	人	90代以上	人
20代	人	40代	人	60代	人	80代	人		

問3. 利用者の障害状況についてご記入ください。

身体障害のみ	人	身体障害+知的障害	人	いずれの障害も有り	人
知的障害のみ	人	身体障害+精神障害	人	いずれの障害も無し	人
精神障害のみ	人	知的障害+精神障害	人	その他の生活障害	人

問4. 利用者の入所前の所在地(直近、10年間)についてご記入ください。

入所者数	人	自宅	人	福祉施設	人	医療施設	人	その他	人
------	---	----	---	------	---	------	---	-----	---

問5. 利用者の退所後の転居先(直近、10年間)についてご記入ください。

退所者数	人	自宅	人	福祉施設	人	医療施設	人	その他	人
------	---	----	---	------	---	------	---	-----	---

4. 貴施設の運営状況についてご記入ください。

問1. 貴施設の年間スケジュールについてご記入ください。(イベント・行事等)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12【月】

問2. 貴施設の1日のタイムスケジュールについてご記入ください。【利用者と職員】

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24【時】	

※記入例

(利)	起床	朝食	清掃	自由時間	昼食	作業訓練	入浴	夕食	自由時間	消灯	就寝
(職)	朝のケア	交代			昼のケア(休憩1H)		交代			夜のケア(仮眠2H)	

6. 貴施設の全体計画についてお尋ねします。

問1. 貴施設の築年数についてご記入ください。 【 】 年

※施設の移転又は、大幅な修繕・改築を実施されている場合は、現在の施設の築年数をご記入ください。

問2. 貴施設の構造種別についてご記入ください。 【 】 (+ 【 】)

選択肢：①木造 ②鉄筋コンクリート構造 ③鉄骨造 ④混構造 【 】 + 【 】 ⑤その他

問3. 増改築や改修・修繕の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 ・ 予定がある 】

※【有】又は、【予定がある】を選択された場合、具体的な改修・修繕項目をご記入ください。

改修・修繕項目 (施設入口のバリアフリー化 [2003年]・利用者定員の増加に対する増改築 [1990年] 等)



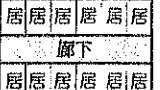


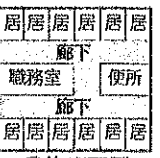
問4. 現在の貴施設のバリアフリーの状況についてご記入ください。 【 完全 ・ 一部 ・ 未実施 】

問5. 現在の貴施設の各種建築設計図の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、図面のご提供の可否についてご記入ください。 【 可 ・ 否 】

各種建築設計図の送付は、調査のお願いと送付用 建築図面例をご参照ください。

※【無】又は【否】を選択された場合、以下の選択肢から施設タイプをご記入ください。

記入欄	施設タイプ	配置タイプ	居室タイプ
施設階数 _____ 階	 <p>①単一施設</p>	 <p>①大舎制</p>	 <p>①中廊下型</p>
居室棟階数 _____ 階			
食堂箇所数 _____ 箇所	 <p>②別棟独立型</p>	 <p>③通路連結型</p>	 <p>③複廊下型</p>
施設タイプ _____ (番号)			

問6. 看取りの有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、実践場所と方法についてご記入ください。

①: 介護施設内で実施 ②: 付属施設 (医療福祉施設) で実施 ③: その他 【 】

実践方法 (配慮されていること 等)

問7. 利用者の生活における重度棟設置の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、具体的な運用基準及び、運用状況についてご記入ください。

運用基準・運用状況

問8. 利用者の生活における混合処遇の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、具体的な運用基準及び、運用状況についてご記入ください。

運用基準・運用状況

問9. 静養室の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

問3. 救護施設の運営以外の事業実施の有無についてご記入ください。 【有・無】

※【有】を選択された場合、具体的な実施事業名及び、その内容についてご記入ください。

実施事業名・事業内容（保護施設通所事業・居宅生活訓練事業・一時入所事業 等）

問4. 救護施設同士の全救協を除く情報共有網の有無についてご記入ください。 【有・無】

※【有】を選択された場合、具体的な情報共有方法及び、その内容についてご記入ください。

情報共有方法・共有内容（県内施設の定例会議 利用者の交流イベント 等）

問5. 貴運営団体が管轄する他の施設との情報共有の有無についてご記入ください。 【有・無】

※【有】を選択された場合、具体的な情報共有方法及び、その内容についてご記入ください。

情報共有方法・共有内容（管轄施設の定例会議 利用者の交流イベント 等）

問6. 利用者の社会復帰に向けた、施設事業の有無についてご記入ください。 【有・無】

※【有】を選択された場合、事業内容についてご記入ください。

事業内容（就労支援事業・作業訓練 等）

5. 利用者のコミュニケーションツールについてご記入ください。

問1. 利用者同士の会話制限の有無についてご記入ください。 【有・無】

※【有】を選択された場合、制限内容についてご記入ください。

制限内容（個人のプライバシーに係る事項 等）

問2. 利用者の外部とのコミュニケーション手段の有無についてご記入ください 【有・無】

※【有】を選択された場合、コミュニケーション手段についてご記入ください。

コミュニケーション手段（パーソナルコンピュータ・携帯電話・固定電話・手紙 等）

問3. 利用者の施設外への外出の際、制限の有無についてご記入ください。 【有・無】

※【有】を選択された場合、制限内容についてご記入ください。

制限内容（時間の制限・回数の制限・範囲の制限・職員同伴 等）

問4. 利用者の施設内での各種イベントや行事に対する参加状況についてご記入ください。

【記入例】カラオケ大会 実施回数：週1回 定員人数：20人 参加人数：10人 職員人数：2人

【行事名】 実施回数： 回 定員人数： 人 参加人数： 人 職員人数： 人

【行事名】 実施回数： 回 定員人数： 人 参加人数： 人 職員人数： 人

【行事名】 実施回数： 回 定員人数： 人 参加人数： 人 職員人数： 人

【行事名】 実施回数： 回 定員人数： 人 参加人数： 人 職員人数： 人

【行事名】 実施回数： 回 定員人数： 人 参加人数： 人 職員人数： 人

7. 貴施設の居室計画についてお尋ねします。

問1. 貴施設の居室数についてご記入ください。 【 】 室

問2. 入所者定員ごとの居室数と床面積についてご記入ください。

1人部屋【 】室【 】㎡・2人部屋【 】室【 】㎡・3人部屋【 】室【 】㎡

4人部屋【 】室【 】㎡・5人部屋【 】室【 】㎡・6人部屋【 】室【 】㎡

7人以上の入所者定員の部屋【 】人部屋・【 】室・【 】㎡

問3. 居室のタイプと使用している寝具のタイプ及び、それらの採用経緯についてご記入ください。

居室タイプ：和室【 】室・洋室【 】室 寝具タイプ：ベッド【 】床・布団【 】床

居室タイプ及び、寝具タイプの採用経緯（設立当時の様式に準拠・生活機能の低下に伴う採用 等）

問5. 居室への私物の持ち込みの可否についてご記入ください。 【 可 ・ 否 】

※【可】を選択された場合、入居時の私物の持ち込み・入居後の私物の購入について詳細をご記入ください。

持ち込み可能な私物（衣服、寝具 等）

持ち込み不可な私物（家具、通信機器 等）

購入制限のない私物（身の回りの品、電化製品 等）

購入制限のある私物（酒類、煙草 等）

問6. 現在の貴施設の居室写真の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、写真のご提供の可否についてご記入ください。 【 可 ・ 否 】

写真の送付は、調査のお願いと送付用 居室写真例をご参照ください。

※【無】を選択された場合、お手数ですが改めて撮影頂きメールにて送付のご協力をお願いします。

問7. 居室の間仕切り（カーテン・家具）の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、具体的な間仕切り方法をご記入ください。

間仕切り方法（画像の提供頂ければ記入不要です）

問8. 居室の一定期間ごとの部屋替え実施の有無についてご記入ください。 【 有 ・ 無 】

※【有】を選択された場合、実施の頻度についてご記入ください。 【 】 月ごと

※【有】を選択された場合、実施の経緯についてご記入ください。

実施の経緯（利用者同士のコミュニティの形成促進・利用者同士のトラブル・居室定員の変化 等）

ご記入者様へ

調査用紙の記入日： 年 月 日 記入者様の役職名：【 】

今後の見学調査等へのご協力について 【 受け入れ可能 ・ 受け入れ不可 】

見学調査は、支障のない範囲、日時を調整させていただきますので、できるだけご検討ください。
尚、その際は増築・改築等、貴施設の建築計画に関して、ご相談に載ることが可能です。

以上で、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

調査結果は、ご回答のあった施設に2018年3月頃にお送りさせていただきます。

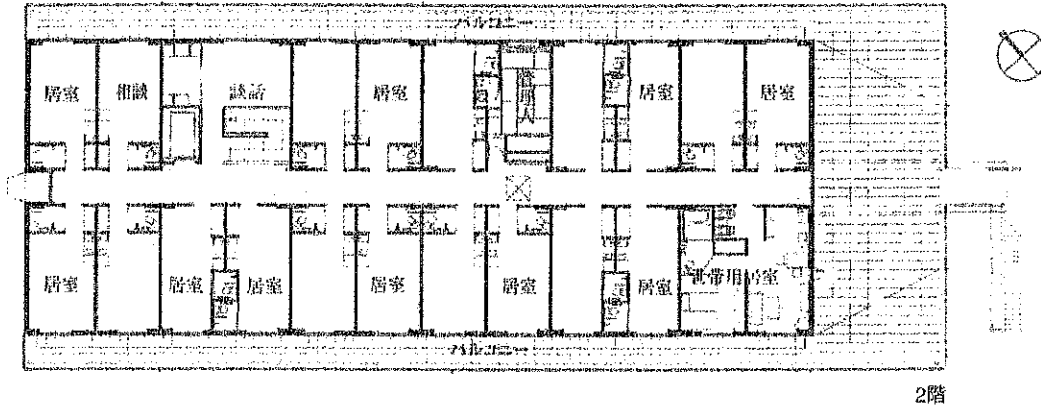
送付用 建築図面例

【kyugo.research@gmail.com】まで、貴施設名をご記入の上、ご送信ください。

断面図 又は、立面図

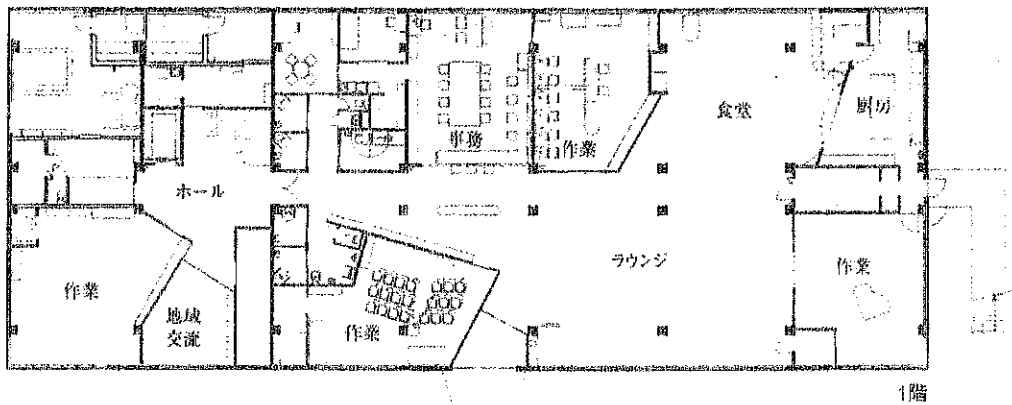


各階平面図【2階】



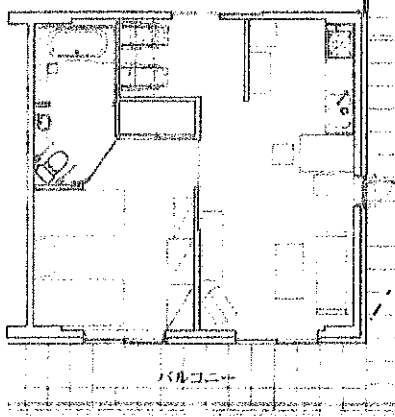
2階

各階平面図【1階】



1階

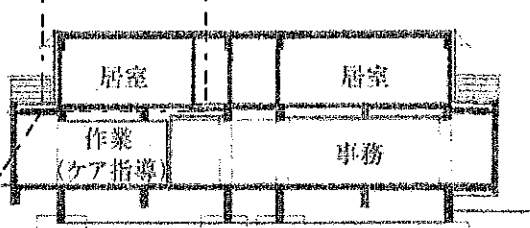
居室平面図



居室ユニット

1:200

居室断面図 又は、立面図



出典：建築設計資料集成【福祉・医療】

日本建築学会＝編 丸善出版